

平成25年度（2013年度）

人権教育カリキュラム に関する研究

平成25年度の箕面市教育センターの教育研究は、新箕面市人権教育基本方針に基づき、人権教育の指導法の開発を行い、本市における人権教育のモデルカリキュラムを作成することを目的とし実践的研究を行った。

<研究員>

佐藤 秀昭	箕面市立萱野小学校	(箕面市人権教育研究会事務局)
井上 善嗣	箕面市立萱野小学校	(箕面市人権教育研究会事務局)
横岩 直子	箕面市立南小学校	(箕面市人権教育研究会事務局)
中川 禎之	箕面市立第二中学校	(箕面市人権教育研究会事務局)
西川 ひとみ	箕面市立第二中学校	(箕面市人権教育研究会事務局)
上田 健輔	箕面市立第三中学校	(箕面市在日外国人教育研究会)

箕面市人権教育研究会	運営委員会	
箕面市人権教育研究会	人権・部落問題学習専門部会	
箕面市人権教育研究会	子どもの育ち専門部会	
箕面市人権教育研究会	共生の教育専門部会	
箕面市在日外国人教育研究会		各部会員

<スーパーバイザー>

神野 ちどり	元東大阪市立平岡東小学校長
上杉 聡	関西大学講師
若槻 健	関西大学准教授
河合 大輔	箕面市国際交流協会
萬田 久美子	大阪府男女共同参画推進財団

はじめに

本研究は、平成 23 年（2011 年）3 月に策定した新箕面市人権教育基本方針に基づき、人権問題に関する学習を系統的に進めるためのモデルとなるカリキュラムの作成を行う。また、カリキュラムの検討、検証の過程を通じて、市内各校園所における取組の推進をねらうものである。

本研究におけるカリキュラムとは、部落問題、子どもの人権、男女協働参画、在日外国人問題（多文化共生）などの人権問題に関する学習を進めるにあたって、発達段階に応じたねらいと、それにもとづく教材配列、指導案及び指導のための資料をさす。

平成 23 年度（2011 年度）は、箕面市人権教育研究会（以下「箕人研」とする）、箕面市在日外国人教育研究会（以下「市外教」とする）の事務局と人権教育課の協働より、部落問題学習に関するモデルカリキュラムの素案を作成、配付し、市内の学校において一定の活用がなされている。

平成 24 年度（2014 年度）より二か年にわたり、教育センター研究員制度の下で体制を充実させ、部落問題学習の素案の検証や充実させるとともに、男女協働参画や子どもの人権、在日外国人問題（多文化共生）についても、カリキュラムづくりを進めた。

I 研究テーマの設定について

人権問題に関する学習における指導法や系統性のモデルとなるカリキュラムの開発

II 研究の方法

本研究員は今年度、箕人研運営委員会と 3 つの専門部会（人権・部落問題専門部会・子どもの育ち専門部会・共生の教育専門部会）、ならびに市外教の部会員に対し、本市教育センターが研究員の委嘱を行うことにより組織している。

部落問題、男女協働参画や子どもの人権、在日外国人問題（多文化共生）の各問題について指導案の検討や授業をもとにした討議を行った。

研究の成果を箕面市人権教育研究会、箕面市教育研究会夏季合同 1 日研究会にて報告し、参加者による討議やスーパーバイザーによる助言をもとに、成果と課題を検証した。

（研究体制）

部落問題学習に関するカリキュラム	箕人研人権部落問題学習専門部会
人間関係・集団づくりに関するカリキュラム	箕人研子どもの育ち専門部会
男女協働参画に関するカリキュラム	箕人研共生の教育専門部会
在日外国人問題・多文化共生に関するカリキュラム	箕面市在日外国人教育研究会
その他、カリキュラム作成全般にわたる調整等	箕人研運営委員会

Ⅲ 研究内容

平成 25 年度（2013 年度）

回	実施	実施内容
第 1 回	4/17	部長・地区人研運営委員選出
第 2 回	5/15	年間計画の作成
第 3 回	6/19	授業づくりの方向性・夏季一日研にむけて①
第 4 回	7/17	夏季一日研に向けて 分科会の企画立案②
第 5 回	8/1	箕面市人権教育研究会・箕面市在日外国人教育研究会・箕面市教育研究会 夏季合同一日研修会
希望者 のみ	8/7	部落問題専門部 夏季研修「橋のない川」鑑賞・交流
第 6 回	9/18	授業研にむけて
第 7 回	10/16	授業研にむけて 子どもの育ち「子どもをつなぐ」研修 講師 沖本和子さん（吹田市立岸部第一小）
第 8 回	11/11	市外教「ニッポンのよさ 外国のよさ 出会いから広がる世界」 授業公開（萱野小学校 人権総合学習）
	11/20	子どもの育ち「ぼかぼかタイム」保育公開（かやの幼稚園） 部落問題「渋染一揆」公開授業（萱野東小）
第 10 回	12/4	共生の教育 授業公開「デートDVについて」（二中）
第 11 回	1/22	授業指導案検討・仕上げ
第 12 回	2/19	年間反省・ふりかえり
	3/6	授業公開「デートDVについて」（一中）

IV 研究の成果

1. 人権教育を進める上でのねらい

① 部落問題学習のねらい（人権・部落問題学習部会）

	知る	行動する	地域とつながる
めざす子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 差別の現実を知り、部落差別につながるような言動を見抜く 差別の解消にむけ、必要なことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら差別をしないだけでなく、他者の差別を見逃さない姿勢を身につける 差別に対し、異議を言い、その解決にむけた行動をとる 	<ul style="list-style-type: none"> 部落や自分の住む地域について知り、ヒト・モノ・コトとの出会いを通じ、部落差別について自らも関係者・当事者であるという認識を持つ
前期 小1～小4	<ul style="list-style-type: none"> 学校や友だち関係の中で、人権が大切にされる、安心できる環境について何が大切かを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中の人権についての課題に気づき、話し合う 人権が大切にされる集団になるための方策を考え実行する 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが住む地域の文化や人と出会い、それらに対して肯定的な感情を持つ 人権文化センター（らいとぴあ21・ヒューマンプラザ）について知る
中期 小5～中1	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の産業（公害・労働）や歴史の学習を通して、一人ひとりの人権が大切なものであるということを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の中の人権に関わる事象に興味を持つ 身近な人間関係や地域の中の、人権が大切にされていない状況に気づき、それを変えていこうとする姿勢を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> 部落の文化や人と出会い、それらに対して肯定的な感情を持つ 部落の文化を体験し、その文化が社会に貢献してきた事実を実感する
後期 中2・中3	<ul style="list-style-type: none"> 差別の解消にむけ、必要なことを理解する 歴史や公民の学習を通して、差別の不合理性に気づき、差別を見抜けるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> 人権を侵害する事実を許さず、差別解消に向けて行動する姿勢を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> 部落の人々が文化や産業に対して果たしてきた功績をつかむ 食や文化で人とのつながりを実感する活動をする

自分らしさを発見し、仲間づくりを進めるために

②人間関係づくり・集団づくり（子どもの育ち部会）

	態度(姿勢) 自尊感情・多様性の尊重 他者への共感・協力 など	技能(スキル) コミュニケーション 人間関係のつくり方 など	めざしたい集団活動の ポイント
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 自己の個性や良さを認識し、自分らしさに対する自信を持てるよう努める。 他者の個性や良さを理解し尊重する。 一人ひとりが持ち味を発揮でき、集団の中で認められ、居場所が築ける中で、役割や責任を自覚する。 	<ul style="list-style-type: none"> 建設的で主体的な話し合いの中で、問題解決の方策を探る力を育む。 さまざまな問題について意見交換することにより、他者の立場を理解するとともに、対等な人間関係を築くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> >とりくみに応じた集団 □取り組む課題にふさわしい集団の規模を選定し取り組ませる。 □必要最低限のルールで自主的に活動することができる。 □一人ひとりの考えが尊重され、解決の過程が誰にとっても納得できるような活動ができる集団づくりを行う。
小学校 高学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしさや自分の良さ気づくとともに、相手の立場に立って考える態度を身につける。 それぞれが自分の役割と責任について考え、集団生活の向上に努めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の意見を聞き、また自分の意見を積極的に述べることを通して、コミュニケーションを豊かにする力をつける。 自分たちでルールを工夫し、互いに協力して解決できる技能を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> >大集団・学級全体 □集団が動いていく方向と個人の関わり方について、定期的に評価させる。 □目標に対してのとりくみの道筋を考える。 >中集団・6人前後 □異なる意見を持つ人も接点を見出し、共同で活動する練習をさせる。 □互いに力を合わせることで、よりよい成果が得られることを体得させる。
小学校 低学年	<ul style="list-style-type: none"> 人にはそれぞれ好みや考え方などの違いがあることを知り、お互いの「自分らしさ」を認め合い、大切にしようとする。 相手の良さががんばりを見つけ、認め合うことで、一人ひとりが自信を持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活でのあいさつや言葉がけ、遊びなどを通して、自分から友だちとつながろうとする。 遊びや行事をみんなでやり遂げたいという充実感が持てるよう、自分たちでルールを工夫するとともに、集団生活における決まりの大切さを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> >小集団・4人組 □2人組や4人組のグループ活動を通して協同作業や認め合い活動を行い、安心できる範囲を広げさせる。 □集団内での自分の「役割」を理解し、責任を持ってやり遂げる。
就学前 (保幼)	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人とのふれあいの中で、自分の良さを知り、自分が大切にされていることに気づく。 友だちと遊ぶ中で、自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする。 いろいろな友だちとの関わりの中で、友だちの良さ気づくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな感性を持って、感じたことや考えたことを表現する。 自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりすることを通して、伝え合う喜びを感じる。 友だちと遊ぶ中で多様な感情体験を味わい、共感し合う喜びを感じる。 生活や遊びに必要な言葉を知り、使う。 	<ul style="list-style-type: none"> >2人組 □隣同士などでペアやグループになり、話し合いやふれあい遊びなどを通して、安心感を持たせたり、仲間意識を育てたりする。 □集団の中で役割を担うことで、自己有用感を持たせる。 □当番活動やグループ活動を通して、友だちと協力することや責任を持って取り組む大切さを感じさせる。

ベースとして大切にしたい観点
◆子どもをつなぐ保育・授業づくり
◆生活のあらゆる場面での人間関係づくり
◆教職員の人権感覚と関わり方

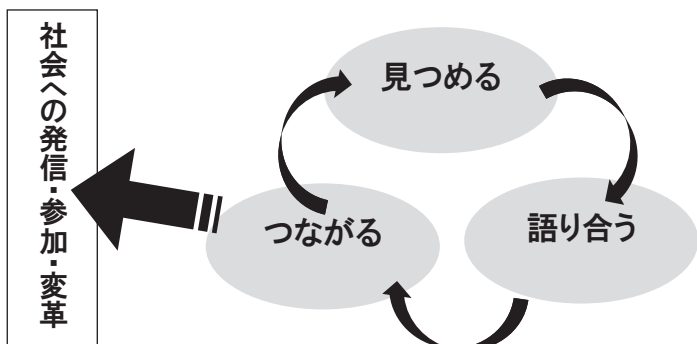
(参考；大阪府「人権教育推進プラン」人権教育プログラム より)

(参考；「エンカウンターで総合が変わる」)

國分康孝監修(図書文化)より

★集団づくりに関わって同和教育が大切にしてきた
 《見つめる—語り合う—つながる》というサイクル

「わたし 出会い 発見 Part6」より



③男女共同参画 (共生の教育専門部会)

	知る		出会う・行動する	
	心と体・生命	生き方・働き方	心と体・生命	生き方・働き方
就学前	身近な人とふれ合い、共感し合う体験を通して自分が大切にされていることを知る。			
	<ul style="list-style-type: none"> 家族や地域の人など身近な人とのふれあいの中で、自分が大切にされていることに気づく。 		<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で自然や人とふれあい、自らの生命を大切にするとともに、生命あるものを大切にし、相手を尊重しようとする。 	
小学校低学年	生命の大切さについて学ぶとともに、家族の一員としての自分に気づく。			
	<ul style="list-style-type: none"> 自分と友だちや周りの人の心と体は、かけがえのない大切なものであることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな家族のくらし方があることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとってされたいやな接触に対し「いや！」と言える。 自分の気持ちを伝え相手の気持ちを知ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の一員としての自覚を持ち、主体的に家庭生活にかかわろうとする。
小学校高学年	固定的な性差観の問題点に気付くとともに、男女が互いに尊敬し合うことの大切さを理解する。			
	<ul style="list-style-type: none"> 身体的な男女の違いに気づき、第二次性徴を理解する。 体も心も性のあり方は多様であることを知る。いろいろな家族のあり方があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの生活から、固定的な性別役割分担意識の問題点を知る。 職業、スポーツ等に見られる社会にある性別役割分担意識が変わろうとしている事実を調べ、男女共に生きる社会について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの「自分らしさ」を尊重し合える関係をつくらうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 固定的な性別役割分担意識を見直し、互いに協力しようとする。 メディアを客観的に見ようとする。 自分の能力を発揮して働いている人との出会いから、自分らしい生き方・働き方について考えようとする。
中学校	性別役割分担意識にとらわれない生き方について考えるとともに、社会にある性差別を見抜き、男女共同参画社会の実現に向けて行動する。			
	<ul style="list-style-type: none"> セクシュアル・ハラスメントやデートDVは、重大な人権侵害であることを知る。 エイズについて正しい知識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 固定的な性別役割分担意識は、その時代の社会通念や文化によって作られたものであることを知り、性別にとらわれない生き方について考える。 「女子差別撤廃条約」や「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」等の、趣旨や現状について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と人との対等な関係をつくらうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 性別にとらわれず、それぞれが自分の能力や適性を活かす、自分らしい生き方・働き方を自由に選択しようとする。 社会の中にある男女の問題について深く考え、平等な社会を実現しようとする。

④在日外国人問題（多文化共生）のねらい（在日外国人教育研究会）

	目標	知識	態度
就学前	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな人がいて、それぞれの思いや考え方が違うことに気付く。 ・ いろいろな国の文化や生活にふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの良さや違いについて気づき、それらを尊重する大切さを知る。 ・ お互いに認め合ったり、励まし合ったりすることを通して、友だちの良さを知る。 ・ いろいろな国があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの名前を親しみを込めて呼び、大切にしようとする。 ・ 自分と友だちの誓いに気付き、認め合って、一緒に活動する楽しさを味わう。 ・ 自分が受け入れられていることに気づき、友だちの子とも受け入れようとする。
小学校 低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな国の文化や生活にふれ、その違いを認め合うことによって異なる文化への理解を深める。 ・ 出会いを通して多文化理解の知識や態度を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界にはいろいろな言葉や習慣、名前、遊び、音楽、服装、食べ物などがあるということを知る。 ・ 日本には多くの国の人が住み、自分の周りに外国の人がいることを知る。 ・ いろいろな考えがあることに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なる文化や生活に関心を持つ。 ・ 違いを認め受け入れようとする。 ・ 人間として共通する思いや願いがあることを知ろうとする。
小学校 高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本にはいろいろな民族や国籍の人たちが住んでいることを理解する。 ・ 身の回りにある差別や偏見の不合理さに気付く。 ・ 在日外国人との共同での取り組みや出会いを通して、それぞれの文化や考え方を尊重し、共に生きることの大切さを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本と諸外国の関係について学び、自分の生活とのつながりを知る。 ・ 世界にはことなる文化・生活・習慣・考え方などがあることを知るとともに、相互の違いや共通点を見つけ、多様な価値観や生き方があることに気付く。 ・ 在日外国人が日本で暮らす状況を知る。 ・ 近年渡日し、日本に定住している外国人の子どもたちの思いや願いを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの国には独自の文化や生活様式があり、互いに尊重し、学び合うことを通じて、自らの考え方や生活様式を豊かにしていこうとする。 ・ さまざまな国にルーツを持つ人が、日本で暮らす歴史的な経緯と現在の状況を理解し、差別や偏見のない社会の実現について考え行動する。 ・ 本名で生きる人々の思いについて考える。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在日外国人が日本で暮らす状況や歴史的経緯等を理解し、差別や偏見をなくそうとする。 ・ 国際社会の中で生きる人間として、違いを豊かさにするという認識を持ち、お互いの人権を大切に社会の実現に向けて行動する。 ・ 箕面市国際交流協会との共同での取り組みを通して、共に生きる社会の実現をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸外国の文化や生活などにふれ、多様な価値観や生きがいがあることを理解する。 ・ 国際社会においては、さまざまな人権問題があることについて学ぶ。 ・ 新たに渡日し日本に定住する外国人生徒の現状について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会に生きる人間として、さまざまな機会を通して互いの文化や歴史を理解し、尊重する態度を身につける。 ・ 在日外国人に対する差別や偏見をなくし、ともに生きる社会を実現しようとする。 ・ 異なることが豊かさであるという認識を持ち、共に生きていこうとする。 ・ 在日外国人生徒が在籍している歴史的経緯や日本で暮らす状況を知るとともに、本名で生きることを意味を考える。 ・ 箕面市国際交流協会との共同での取り組みを通して、お互いの人権を大切にしようとする社会の実現に向けて行動する。

2. 授業実践より

部落問題学習プラン①

道徳学習指導案 も～お～うしです。

箕面市立西南小学校
授業者 大庭 紘

1. 日時・場所：平成26年（2014年）2月24日（月） 5時限目
2. 内容項目：3-（1）生きることを喜び、生命を大切にすることを。
3. 教材について

私たちの身のまわりには牛からできているものがたくさんあり、そのことを、2人で、グループで、クラス全体で、この絵本に描かれている絵を見て会話・交流しながら、確かめていってほしいと考えた。

また、子どもたちにとって「ものが何からできているのか」が見えにくい今の時代、この絵本を通して、私たちの暮らしは、「牛」や人、たくさんの「いのち」が支え合って成り立っていることを感じ、ものの大切さ、人の大切さ、命の大切さを学んでほしいと思う。教材も～お～うしです。エルくらぶ・解放出版社）

4. 児童について・指導にあたって

1年生の時に「だれのかな」、2年生では「ゆっくり、ゆっくり」など、友だちとのちがいを知り、それを受け入れる心を育ててきた。

また、生活科の「大きくなったわたし」で、自分の成長してきた過程や、それを支えてくれた親の想いを知り、自分のいのちも、友だちのいのちもかけがえのない大切なものという考えに触れることができてきている。

国語科の「スーホの白い馬」では、スーホと白い馬の友情や、自分たちの生活（馬頭琴）に、白い馬（動物）のいのちが関わっていたことなども知ることができた。

授業では、積極的に参加しようとし、進んで発言する児童も多いが、自分の言葉で説明することに恥ずかしさや自信の無さがみられ、発表が一部の児童に限られてしまうことがある。

今回、タイトルを隠し、文字の書かれていない絵本を使うことで自由な発想と考えを引き出し、付箋で自分の意見を書き出すことで、児童全員に発表の場ができるだろうと考える。

5. 本時の目標：牛からできている自分の身近な物を知り、牛だけでなくいろんな生き物から命をもらい、自分たちが生きていることに気付く。

6. 本時の展開

教師の発問・指示	児童の反応・活動	指導上の留意点 支援の方法
<p style="text-align: center;">課題提示(出会う)</p> <p>・ある本を紹介したいと思います。</p>		
<p style="text-align: center;">てだてをつかむ</p>		<p>・グローブやボールのページまでの4枚×2セットを1枚ずつ班に配る。</p>
<p>・この本には、身の回りにあるものがたくさん出てきます。何の話か考えながら、知っているものを付箋に書き出しましょう。</p>		<p>・1枚の付箋に1つのことを書かせる。</p>
<p style="text-align: center;">自力解決(向き合う)</p>	<p>・自分で考えて見つけたことを付箋に書いていく。</p>	<p>・机間指導をしながら児童の意見を吸い上げる。</p>
<p style="text-align: center;">班交流(つなげる)</p>		
<p>・班でどんな意見が出たか比べてみましょう</p>	<p>・班の中で意見交流しながら何の本か考えていく。</p>	<p>・拡大コピーや電子黒板を使って見やすくする。</p> <p>・続きに出てくる物を児童の意見を拾いながら紹介していく。また、□に入る言葉でそぐわないと思う言葉は前もって説明に入れておく。</p>
<p style="text-align: center;">全体交流(つながる)</p>		
<p>・発表しましょう。</p> <p>・本の続きを紹介します。</p> <p>・本のタイトルはこれです。</p> <p>・本についている帯にはある言葉が入ります。どんな言葉が入ると思いますか。</p>	<p>・拡大コピーに貼っていく。</p> <p>・続きを見て話の流れを考える。</p> <p>・最後のページを見て、「うし」の話だと気付く。</p> <p>・班で話し合って発表する。</p>	<p>・今、学習している、国語『スーホの白い馬』生活『大きくなったわたし』にもつながり、命の大切さを感じさせる。</p>
<p>牛は、<input type="text"/>以外捨てるところがありません。</p>		
<p style="text-align: center;">まとめ・ふりかえり</p>		
<p>さまざまな生き物の命をもらって自分たちが生活しているを感じる。</p>		

『渋染一揆』

1. 日時 2013年11月20日（水） 5限
2. 場所 6学年3組 33名（男子19人 女子14人）
3. 目的 ①部落の人々が与えられた差別はおかしいと感じる事ができる。
②日常の中にある「おかしい」「嫌だ」と思う事を、自分たちで解決しようとする力をつける。
③差別を自分ごととしてとらえ、これまで以上によりよい関わり合いをしようとする態度を育てる。

4. 子どもたちの様子

本学年の児童は、地域音楽会、運動会の組体操など学年で取り組む行事などは意欲的に取り組むことができた。目的が明確なものに対しては集中力が高く、個々に努力する姿勢や仲間と励まし合う関係もみられた。また、学習においても日々のグループ学習で互いの意見を交流したり、考えを深め合ったりする素地はできている。

一方、目的が困難で、方向性が見えないものに対しては、自分が何をやっていいのか分からず、自ら考え行動することが難しい。

また、日常では友だちの陰口を言ったり、立場の弱い友だちに対して強い態度で接したりする様子がある。そのため、友だち同士のつながりが希薄で、すぐに友だちを裏切り、友だち関係が変化する。互いに心の内を話し合い、解決するよりも、もめごとを避ける様子がある。

10月におこなった《友だちランキング》では、「自分は友だちの悪口を言う」という項目に、多くの児童が“よく言っている”と自己評価していた。また「自分のことを考えていろいろのことを言ってくれる」という項目はランキングの下位にある傾向があった。この結果からも、信頼関係が希薄な様子や、互いの行動を修正し合ったりするような関係が薄いことがわかった。

これらの様子から本学年の児童らは目的に対して自ら考え行動するということと、友だち同士つながり合うことに課題がみられた。

5. 指導にあたって

このような学年の実態から、学年目標を「自ら動く」「自らつながる」「自ら生み出す」に設定し、教師主導ではなく子どもが主体的に動けるよう「実行委員制度」を取り入れてきた。修学旅行や、音楽会、運動会など様々な行事を子どもたちが自分たちで考え創り出す場面を設定してきた。

また、運動会では人間関係づくりのねらいを持たせ、子どもたちが互いに相談し、それぞれの長所や短所を認め合う中でポジションを決定するなど、グループで取り組める場面を設定してきた。

これらを乗り越えて、子どもたちに少しずつ変化が見られている。自分たちの課題を見つけ取り組む姿勢や、関係性の幅が広がり始めてきたように見える。

こういった状況の中、歴史の教科書にも登場する「渋染一揆」を教材化することで、本時の目的(前述)を達成させ、これからの自分たちの生き方に活かして欲しいと願っている。

6. 活動の流れ

- 4月 平和学習（原子爆弾、平和への取り組み）
 5月 ①サイコロトークング 平和学習（修学旅行、原発学習） 地域音楽会
 6月 平和学習（原発学習）
 7月 ②四面鏡 平和学習（自分たちにできること）
 9月 運動会
 10月 ③友だちランキング
 11月 ④渋染一揆 校内音楽会 ⑤4つの立場
 12月 人権課題（視覚、聴覚障がいについて）
 1月 卒業式に向けての取り組み おたのしみまつりに向けて
 2月 おたのしみまつり
 3月 卒業式

7. 指導の流れ ※全4H

第1時限

- ・江戸時代を思い出し、自分の立場で考える。
- ・部落差別はおかしいということを感じる。

	活動	反応	準備物
7分	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の差別を読む（範読） （新聞記事：ティーンズメール） Q：今は位としてある？ 現代はないのに、差別や偏見、いじめとして残っている。これを変えたいという想いがある。だから一緒に感じて、勉強していこう。 ・昔は制度としてこんなことがあった。 Q：いつの時代だろう？ Q：その人たちはどうしていたのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ない。 ・江戸時代。明治時代。 ・一揆をおこした。 ・打ちこわし・戦争 	現代の差別
2分	江戸時代にタイムスリップ <ul style="list-style-type: none"> ・渋染一揆結集の地の写真を見る Q：どんなことがあった場所でしょう？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・一揆をするために集まった場所 ・一揆があった場所 ・一揆の中心部 	大型テレビ 写真
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・渋染一揆の教材文を読む。 一、「別段お触れ書き」（範読） ・儉約令を知る。 ・岡山の地図を提示 	（拡大したものを教室に貼っているのを見て） えーめっちゃあるー！	教材文1 儉約令（大） 地図（ネット）
15分	このあと、あなたならどうしたか？ ワークシートに書く 個人→班→クラス	<ul style="list-style-type: none"> ・一揆 ・我慢する ・自殺する ・無視する ・手紙 ・話し合い 	ワークシート①

		・逃げる	
5分	振り返る (わかったこと、感じたこと) ・ファイルづくり 画用紙を配布	・同じように生活しているのに、身分上差別された人々が、さらにお触れ書きを出されたのはおかしいと思う。	ワークシート②

第2時

- ・武力ではなかったことを知る。

	活動	反応	準備物
5分	前時の振り返り		
5分	儉約令の現代語訳を知る	職業まで決められるん？	儉約令 →回収
5分	実はこの渋染一揆が歴史に残っている1つの理由は、この一揆が武力で争ったものではないからである。いったいどうしたのでしょうか？	・え！じゃあ何？ ・話し合い？手紙？	
5分	(そう、手紙(嘆願書)で行動をおこした) ・個人で嘆願書を作る ・	・ありえへん！ ・年貢がおさめられなくなる！ ・子どもたちも苦しめられる！	ワークシート③
15分	班(村)で嘆願書を作る	・ありえへん！ ・年貢がおさめられなくなる！ ・子どもたちも苦しめられる！	ワークシート④ (八つ切り)
5分	出てきた嘆願書をクラスで共有する	・同じように生活をしているのにどうして差別をするのか。	磁石
5分	振り返る (わかったこと、感じたこと)	・改めて差別、人の気持ちを考えていないことはいけないと思う。 ・友だちが感じることと、自分が感じることに違いがあった。 ・本物の嘆願書がどんなものか見てみたい。	ワークシート⑤

第3時

- ・怒りを表出するのではなく、伝わるように書くことが必要であることを知る。
- ・自分たちのことだけではなく、他の村や子や孫のために想い、嘆願書を書いたことを知る。

	活動	反応	準備物
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のふりかえり ・本物の嘆願書を知る ・書き下し分を読む ・その後どうなったのかを知る。 二、「取り消しの嘆願書」 (範読) <ul style="list-style-type: none"> ・地理の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・本物嘆願書が見たい。 ・すごい量 ・ていねいに書かれている。 	嘆願書 書き下し分 教材文2
5分	自分たちが作ったものと比較し、感想を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・すごく丁寧 ・こんなに書けるんだー。賢い。 ・自分のことだけじゃない ・怒りにまかせて書いていない 	ワークシート⑥
5分	嘆願書は突き返されることを知る 三、「強訴の決心」 (冒頭のみ) (範読)	<ul style="list-style-type: none"> ・え？あんなに丁寧な嘆願書が返された。 ・ありえへん。 ・なんでなん？理由が知りたい。 	教材文3
3分	あなたならどうする？	<ul style="list-style-type: none"> ・一揆 ・打ちこわし ・もう一度手紙を書く ・藩主に会いに行く ・あきらめる 	ワークシート⑦
5分	班(村)で話し合い、班(村)の行動を決める	<ul style="list-style-type: none"> ・一揆 ・打ちこわし ・会いに行く 	
10分	どんな想いが今、自分を動かしているのか？ 個人→班→クラス	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ条件、もしくはそれ以上に働いているのに、厳しい条件を突きつけられるのはおかしいと思い、それを覆そうとする気持ち。 ・自分だけでなく、子や孫、他の村の人々のことを想い、決めつけられることを許さないという気持ち。 	ワークシート⑧
7分	振り返る (わかったこと、感じたこと)		ワークシート⑨

第4時

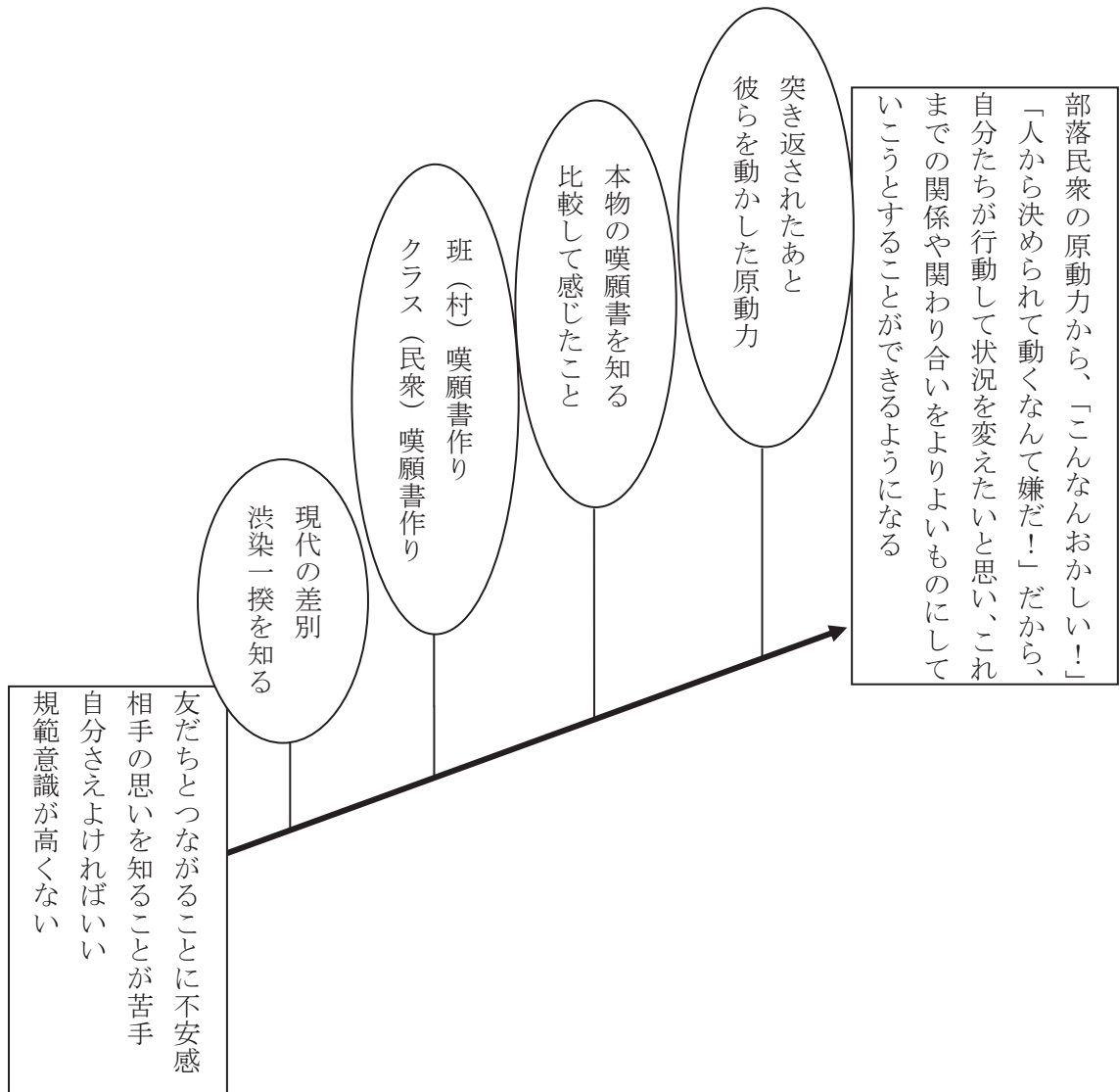
- ・あきらめず、平和的解決をすることで、解決しようとした思いを知る。
- ・仲間と協力すること、自ら動くということを感じられる。
- ・現代の自分の生活の中で、おかしいと思える場面はないか考えることができる。

	活動	反応	準備物
5分	前時の振り返り		
10分	その後どうなったかを知る		教材文
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 三、「強訴の決心」(続き)(範読) 四、強訴に立ち上がる 五、尊い犠牲と勝利 </div>		
5分	現在の岡山の様子を知る ・水がふるまわれた事実も知る。 ・誰一人殺されなかった。 ・亡くなった人は6人に留まる ・苗字が与えられる	・本当に行ってきたんだ。	岡山の画像
10分	・アデランテ(前進)ポイントを考える。 個人→班→クラス おかしいと思ったことに対して、そのポイントは使えるのか?	・仲間あつめ ・話し合う ・つながり ・まわりをよくしようとして動いた ・あきらめない力 ・差別は許されないという気持ち ・協力 ・仲間のために	ワークシート⑩
3分	現代の差別を振り返る ・なぜこの学習を始めたのか。 (ティーンズメール)	・思い出すことができた。	
13分	学習全体を振り返る 渋染一揆で学んだことを自分たちのまわりにある差別にどう活かすことができるか	・自分たちのクラス、関係を変えていきたい。 ・仲間あつめ ・話し合う ・つながり ・まわりをよくしようとして動く ・あきらめない力	ワークシート⑪

※見る視点

- ・これまでの学習を振り返っている。
- ・昔の差別と今の差別(いじめや偏見、位の価値観等)と重ねながら振り返りをしている。
- ・これからの自分の行動をどうしたいかを宣言できている。
 (→つまり、渋染一揆を江戸時代に起きた差別された人々を苦しめかわいそうだったという振り返りではなく、昔と今をつなぎ、現代に残る差別と向き合い、考えることができているか。)

イメージマップ



参考文献

- ・稲垣有一、寺木伸明、中尾健次 1993 部落史をどう教えるか 解放出版社
- ・角岡伸彦 2005 はじめての部落問題 文藝春秋
- ・角岡伸彦 2003 被差別部落の青春 講談社
- ・岡山からの人権教育 岡山県人権教育研究協議会
- ・岡山資料 岡山県洪染一揆資料館

(資料)

- 一、 男女とも着物は木綿とせよ。
- 一、 髪の上は目立しいことのないようにせよ。女の櫛・かんざしの類は、竹・木・銅・真鍮の外は使用してはならない。
- 一、 身元のよい下男下女などを召し仕っているほどの者たちは、所持している絹・紬の類は、裏地・下着・帯等に使用することはかまわない。
- 一、 音信や贈答は無用である。
- 一、 村の祭礼・嫁取のとき、凶事のときの親類たちの集いでは、一汁一菜・膾酢和・酒三献の外は無用
- 一、 吉凶の節の衣服や凶年の節の上着は、夏冬差別なくさらしを用いること。
- 一、 用事などでの集まりで食事を出すときは、腹が調う程度のもので、ずいぶん手軽にすべきである。
- 一、 「ざるふり」たちは、法で定めた31種類の外は、売買を堅く禁止する。
- 一、 村に町方の商人が入り込んで商いをするについては、31種類の外は禁止する。
- 一、 上方や他国からの商人が入り込んできても、商売をしてはならない。
- 一、 茶屋並のところは、新規の商売は禁止する。
- 一、 茶屋並のところへ出かけて仕事をしたり、屋敷がえすることは禁止する。
- 一、 行商をしてはならない。
- 一、 海辺など船をつなぐ場所では、酢・醤油・あぶら・材木・漁具、その他簡単な日用品を取り扱うことはかまわない。
- 一、 手作りの草履・青物類、海辺でとった塩、小魚類など、所の産物は、耕作の合間合間に城下に持って行って行商することはかまわない。
- 一、 往来の外で清酒などを売ることは、一切禁止する。
- 一、 村役人以下が村用などで寄り合う時は、それぞれ腰付弁当にすべき。もちろん、禁酒とすべきこと。
- 一、 生菓子の類は、ひとつ三銭より高い値段の品を売買しないこと。
- 一、 家づくりについては、身分に過ぎないこと。
- 一、 日傘・雪駄は用いないこと。
- 一、 雨天の日は、箕傘を用いること。
- 一、 村で髪結を業にしている者があるように聞いている。今後、必ずやめること。
- 一、 何を家業とするでもなく、遊び暮らしておる者があつたならば、差し押さえること。
- 一、 村の医者は、白張の日傘はかまわない。
- 一、 着物は、無地の渋染・藍染に限ることはもちろんのことである。しかしながら急に仕替えるのでは、かえって費用もかかり、迷惑するかも知れないので、これまで所持している粗末な木綿の着物は、そのまま当分着用してもよろしい。所持しているものでも、紋付のものは着てはいけない。もとより、藍染・渋染の外は、新調することは決してならない。
- 一、 目明したちのことは、日頃の身なりが百姓とはちがっているので、着物の件はこれまでのとおりであると心得よ。もっとも絹類を用いることは、一切いけない。
- 一、 雨天のとき、隣家や村内のなかま等の家へ行くときは、はだしであつては迷惑するであろうから、そのようなときは、栗下駄をはくことは認める。もっとも、顔見知りの百姓に会つたならば、下駄を脱いでお辞儀をせよ。他村などの遠くへ行くときは、下駄を用いることは無用である。
- 一、 身分相応にらし、年貢を滞納していない家の女子については、特別、竹の柄の白張傘を使用することは認める。
- 一、 番役などを勤めている者たちは、他所に行くときや、役目の先に行くときは、これまでのとおりと心得よ。もちろん、絹類は、一切着ることは無用である。

成果

1. 具体的な語りがあってよかった。(実際に岡山に行ったのがよかった)
2. ワークシートの小出し作戦が意欲をつなぎ合わせるのに効果的だった。
3. 個人で考えることが難しい子は班や全体に返す時間があって、個人に返っていった。
4. 写真を通して、意欲があがる。
5. なぜ始めたのかを振り返ることをしていたので、自分にしっかり返っていた。
6. 担任が「差別はなくなる」というメッセージを伝えていたのがよかった。
7. 想いがこもっている指導案だった。
8. 個々が考える時間ができていた。
9. 丁寧な授業だった。
10. 問題が生じた時に、今回学んだことで書いたことへ戻れる教材。
11. ファイルにしてたまっていくので達成感を味わえるものになっている。
12. 教材を通して、子どもに伝えることができる。
13. 寄り添った授業だった。
14. 1人ひとりの想いを書き、自分ごととして書いていた。
15. 自分だったらどうする？を考えられる45分だった。
16. ティーンズメールで日常の課題と結び付けて取り組むことができる教材だった。
17. 先生のコメントが励みになっていた。
18. ファイリングし、言語化し続けることがよかった。
19. 身近なもの(日常)とつながれていた。
20. 先生の想いに応えようとしていた。
21. 自分がこうしたいという行動を具体的に書いていた。
22. グループ交流がよかった。
23. 発表ができていなくても、ワークシートにしっかり書いていた。
24. 想いを行動にすることを考える教材だった。

課題

1. 5H 扱いにして、井戸の授業をしてもいい(子どもから出てくるような)。
2. 社会との関連性も考えながら。
3. 差別という行動に対して行動に返すことが目的。そのために、自分たちができる行動を集める
4. 子ども同士がつながるためにグループ学習の持ち方を考える。
お互いの気持ちの交流をおこない、子どもの言葉で子どもがつながる工夫。
誰のどんな言葉が納得できたか。それを受けて友だちに受け入れられた感じを生む。
5. 人々の想いに迫るところまではいかない。子どもに迫れるような展開があってもいい。
6. 意見交流の時間を増やす。
7. 発問の「どんな力?」「アデランテポイント」がわかりにくかった。

8. 教師の想いを話してから、ワークシートを書くようにすると、子どもたちに伝わるものが増える。
9. せっかくだ行ったら、岡山の語りをじっくりしても感じるものが多い
10. 「想いを行動に」という時間だった。
11. 初発問の改善点は、発問のミスなのか、子どもの緊張なのか、問題解決に慣れていないこのなのかを、分析する。
12. アデランテポイントに出てきた、「想い」と「行動」をわけて、想いがあるから鼓動に移ったという、返しの授業を今後やると深みがでる。
出す方法にブレイントレーニングをおこなってもいい。
そして、それが「今でも使えるのか？」を考えるものにつながる。

その後のまとめを考えると、ワークシートの大きさを考え、切り貼りしたら、B4にまとめられる工夫があれば、子どもたちに返しやすい。

研究会の講師山北教諭より

- ・何をもって部落問題学習というのか？
あなたにとって部落問題学習とは？なにをすれば部落問題学習と言いますか？との問い。
- ・子どもたちの姿をみつめる。
「なぜあの子はそんな行動をするのだろうか？」から背景をつかんでいく作業から子ども理解が生まれる。その背景から子どもの生き方を考えていく。
大切なのは、「それっておかしいやん」（不合理さ）を積み上げていく作業。最終的に、こうしたら解決するという考えまでもっていく。
- ・教科書の限界
これらの文面だけでは、差別をなくす運動は全国に広がり、解消されたような構成になっている。差別は今でもあり、その差別をどうやってなくしていくかを考える時間を作る必要性。
教師の想いを持って伝えない限り、部落差別は理解されない。
教師がどれだけ、「不合理さ」をもっているか。知らないから教えられないのではなく、知るために自分がどう向き合うかである。
- ・「汚染一揆」までにどれだけ部落問題学習を積み上げているか。
「不合理さ」を認識できるような取り組みをしていく。
差別していた農民が水をふるまうということからどんな思考が生まれるか。
人々の立場、実態、現実をつかみながら、「不合理さ」に対する怒りをつなぐ。
- ・子どもの現状に合わせて
部落問題学習のゴール「社会をかえる」のみではなく、どんな形でも「学んだことが自分のコレにつながった」とおとすために、くさびとして、部落問題学習の学んだことを実感していけるように声掛けをしていく。

「コミュニケーションカード」(実施学年;幼稚園年長・年少)

			
なまえ			
なまえ			
なまえ			
なまえ			
ごうけい			

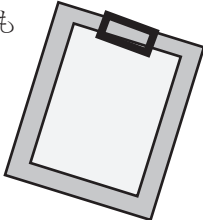

1) 授業内容

- ①コミュニケーションカードを用いてクラスの子へのインタビューを行い、グループごとに集計をする。
- ②まとめた結果、気がついたことをグループごとに発表する。
- ③シェアリングをする。

2) 本時の目標

友だちの好きなものをインタビューすることにより、いろいろな友だちがいることを知り、認め合う関係づくりをする。

3) 展開

	子どもの活動	てだて
つかむ (導入)	<ul style="list-style-type: none"> ▶事前にインタビューごっこをお互いにして経験しておく。 ▶ウォーミングアップに(コミュニケーションカード以外の内容を用いて)「なんでもバスケット」をする。 ▶一人ひとりがレポーターとなって、好きなものをインタビューすることを伝える。 「今日はみんなにレポーターになってもらいます。」 	<ul style="list-style-type: none"> □いろいろな好きなものがあることを感じられるように配慮して行う。 □どんな好きなものがあるか、予想をしながら期待を高められるようにする。
もとめる・ふかめる (展開)	<ul style="list-style-type: none"> ▶グループごとにテーマを決める。(好きな動物、食べ物、色、乗り物、遊び など) ・グループごとにインタビューが分担できるように相談する。 ▶レポーターのイメージを伝え、レポーターのグッズを一人ひとりに渡す。 ▶それぞれにカードに書いてある名前の子に好きなものを聞く。 ▶グループで集計をする。 ▶集計をして気がついたことをグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> □インタビューの仕方を子どもと一緒に考える。(年長) □いいインタビューの仕方を子どもに伝える。(年少) □年長児がリードしながら、グループごとに相談したり、役割分担したりできるようにする。 □集計の仕方がわかりやすいように集計表をグループごとに配る。 
(シェアリング) まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ▶インタビューして気がついたことを発表する。 ▶友だちの意見を聞いて、いろいろな友だちがいることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> □グループごとに横になり、全員で丸くなって座る。 □発表しやすいように「魔法のマイク」を使う。 □友だちの話を書くとき、話すときのルールを子どもと一緒に確認する。 □好きなものから好きな理由など、聞いている子どものイメージを膨らませながら、話を深める。 

「今、どんな気持ち？」(実施学年;小学校低学年)

1) 授業内容

さまざまな場面において、自分の気持ちを伝え合う。

2) 本時の目標

- ・さまざまな場面において、同じ場面でも人それぞれの考え方があることを知る。
- ・さまざまな場面において自分の気持ちを言葉にして伝えることができる。

3) 展開

	子どもの活動	てだて
つかむ (導入)	<ul style="list-style-type: none"> ➤「おちゃらかほい」をする。(ペアで) ➤ねらいを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☐勝ったとき、負けたとき、あいこのときの表情・ポーズをしっかりとさせる。
もとめる・ふかめる (展開)	<p>I 運動会のかけっこで2位になった。</p> <p>①ワークシートに「~の気持ち」+付け足せる子は、例「かけっこで頑張ったので」等、加える。</p> <p>②ペア→全体へ交流する。</p> <p>II 明日が参観日です。算数の授業をします。</p> <p>III 黒板を消そうとしたら、係でない子が先に消していた。 (Iと同様に活動する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☐黒板には表情カードの拡大版が掲示されている。ワークシートには表情カードが一覧になって番号がついている。 ☐表情カードを使って自分の気持ちを伝える。カードを選んだわけを話すことができるよう、声をかける。 ☐Iでいろいろな気持ちがあることを押さえておく。 ☐同じ気持ちでも理由や意味が違うことにも着目させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ➤まとめ ➤ふりかえり ➤ふりかえりを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☐さまざまな場面で、人それぞれいろいろな気持ちがあることを確認する。

「チョット待ったゲーム」(実施学年; 小学校高学年)

1) 授業内容

相手の主張が成立しない場合を出し合い、その数を競ったり、的確な反論を選んだりするゲーム。

2) 本時の目標

相手の意図を考えた効果的な反論かどうかを判断できるようになる。

3) 展開

	子どもの活動	てだて
つかむ (導入)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学校に遅刻してはいけないという主張をする。 ➤ 子どもたちの意見を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☐ 子どもたちの意見をルール説明で使う。
もとめる・ふかめる (展開)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ルール説明 <ul style="list-style-type: none"> ① 一つかけたら 1 点 ② 意味不明の文はマイナス 2 点など 初めは五つくらい ➤ 給食は残してはいけないという主張 ➤ 個人でワークシートに書き込んでいく。 ➤ 隣同士で採点する。…………… ➤ グループの合計点を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☐ 文章を書くことが苦手な子には自分の主張が出しにくい子にはカードを用意する など ☐ 判断基準をしっかり決めておく。 ☐ 子どもの実態によって、個人・グループ・ペアなどに変える。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ グループで出た意見から、みんなで考えたことを交流する。 ➤ 生活や今日の学習をしてわかったことのふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ☐ 自分の思いや生活をもう一度考える。

「自己紹介すごろく(すごろくトーク)」(実施学年; 中学1年)

1) 授業内容

「学級びらき」(学活)

※すごろくは行事や時期に合わせて作成したものを使用する。

[ルール] ①答えるときは一言(単語)で終わらずに理由なども必ず話す。

②同じマスに当たったら「FREE」で答える。(下記すごろくを参照)

(「FREE」は好きな項目を答えることができる。)

③人の答えを否定せずに聞き、最後まで聞く。終わったら拍手をする。

※ルールを前に貼っておいて、みんなにわかりやすくする。




2) 本時の目標

- ・お互いを知り、コミュニケーション力を養う。
- ・人間関係を築くきっかけとする。

3) 展開

	子どもの活動	てだて
つかむ (導入)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 4人班になる。 ➢ ルールを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ すごろくを選ぶ。…行事・時期に合わせて作成したものの中から □ 「学校になじむことが目標」と言う。 □ グループワークのしやすさから4人班になる。
ふかめる もとめる (展開)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ すごろくをやる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 質問を工夫する。 例 小学生のころの話 ○○小の本読み上手 スポーツマン 平泳ぎ □ 学校生活に密着させる。(部活動についてなど)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 担任からの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 友だちになると、もっといろいろな話ができる。 □ 自分のことを話したら、相手も話してくれる。

〔すごろくの例〕

FREE!	冬休み何した?	冬休みどこいった?	冬休みのおもしろい話	4マス戻る!	一番苦しかった冬休みの宿題	班のメンバーのフルネームを漢字で覚える
好きな言葉は?						冬休みに学んだこと
趣味は?	いま悩んでいること	わたし、実は…	振り出しに戻る!!			
好きな教科は?	サイコロをふってどの目ぶん戻る	ゴール!		3学期の目標を高らかに宣言する		
好きな食べ物?	あの教科の勉強どうやってしてるん?!					
スタート	班のメンバーの誕生日を覚える	2学期のまるちゃん/トどのくらいやってた?	スキー実習で不安なこと	スキー実習実行委員にどんなふうに協力する?	FREE!	

「いま、どんなきもち？」(小学校)

- 本時の目標
- ・ ロールプレイを通じて他者の気持ちを考える。
 - ・ 自分は、どう行動すればよいかを考える

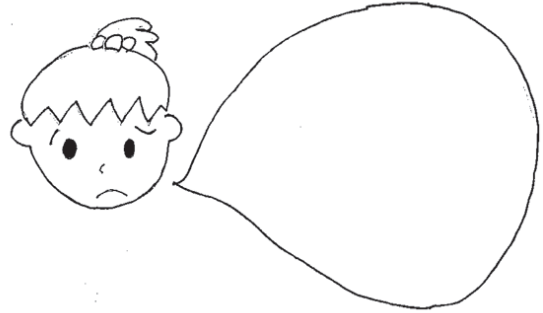
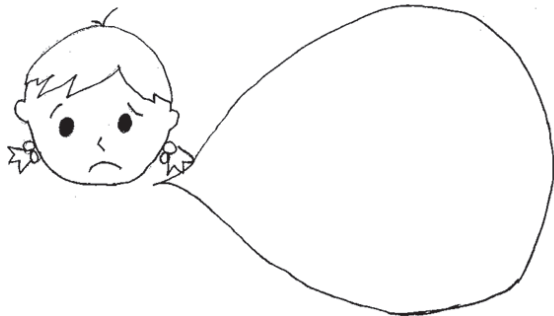
本時の展開

	学習内容	留意点・支援・準備物
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあての確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の流れの説明をする
展開①	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例①の提示 <ul style="list-style-type: none"> A 「Bさん、一緒に帰ろう。」 B 「Cさんと帰るからだめ。」 A 「・・・。」 2. ロールプレイをする。 3. AさんやBさんの気持ちを考えて、ワークシートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で→ペアで意見交流をする。 4. 全体での意見交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文例を紙に書いて黒板に貼る。 ・ Aさんがどう言いたかったかを考えさせる。 ・ 隣の人と、考えたことを伝え合わせる。 ・ Aさんが、いやな気持ちにならない為には、どう言えば良かったかを、考えさせる。
展開②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例②の提示 <ul style="list-style-type: none"> A 「私も遊びによして。」 B 「無理。」 A 「何で無理なの？」 2. ロールプレイをする 3. AさんやBさんの気持ちを考えて、ワークシートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で→ペアで意見交流をする。 4. 全体での意見交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文例を紙に書いて黒板に貼る。 ・ 無理といわれたAさんの気持ちを考えさせる。 ・ Bさんは、どうすれば良かったかを考えさせる ・ 隣の人と、考えたことを伝え合わせる。 ・ どう言えば良かったかを考えさせる。
まとめ	<p>ふりかえりをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の気持ちを考えた言い方を心がけるようにさせる。

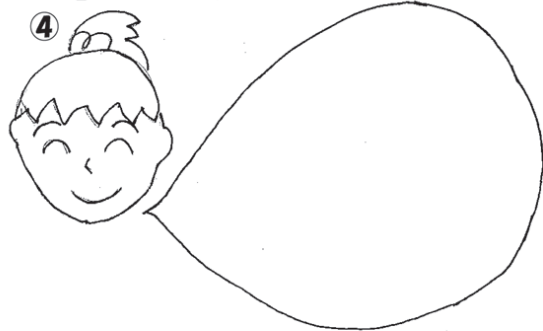
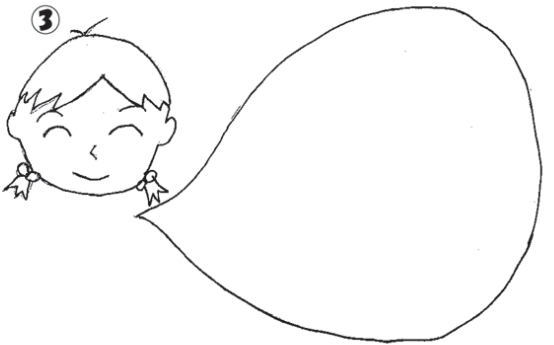
ワークシート

① Aさん 「わたしもあそびによして。」

② Bさん 「むり。」



☆☆ どういえば、ニコニコ顔になれるか考えよう。



年 組 名前 ()

共生の教育学習プラン②

「いま、どんなきもち？」(中学校) (1/2)

本時の目標 ロールプレイをしながら、その時の気持ちを考える

本時の展開 (2/2)

時間	指導過程	活動内容	
		教師の働きかけ	児童の反応・活動
5分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする 導入 本時の内容を説明する 同じ場面においても個々に多様な感じ方があることを知ってもらう。	例文会話の用紙を配布	個々で例文を読む

<p>20分</p>	<p>展開① 簡単な場面例を挙げる。 (例) A: そのペン貸して!! B: ええ、そのペン、誕生日にもらったやつやから大事に使ってんねん。貸したないわ。 A: ええやん、すぐ返すし、そんなにたくさん使うわけちゃうし。壊れるもんちゃうやん。 貸してや、すぐ返す返す。 B: ……(と言いながら、Aは強引にBから借りる)</p> <p>場面例を見て自分ならどう感じるか? 個人作業</p> <p>他の人がどんな感じ方をするか知る グループワーク</p> <p>展開② 各班で設定場面に応じた事例のロールプレイを考える グループワーク</p> <p>・実際に演じてみる。</p> <p>展開③ 設定人物がどう感じているかを考え、班の中で意見交換する。 多様な感じ方があることを知る グループワーク</p>	<p>・教師と生徒（一人を挙げる）で場面例を演じる。</p> <p>設定場면을提示 そうじ、休み時間、給食 ワークシート1を班に1枚配布</p> <p>次回班ごとにプレゼンすることを伝える。</p> <p>ワークシート2を班に1枚配布</p> <p>ワークシートは次回の資料として預かる。</p>	<p>AとBが心の中でどんな風を感じているか個々に考える</p> <p>・班ごとに意見を交換する。 班の中で司会を設定話し合う</p> <p>・班ごとに、3つの場面から日常で起こりうる事例を考え、会話形式にする。ワークシートに記入（司会、記録など決める）</p> <p>演者を決め、どのようにすればプレゼンができるか考える (せりふ・動き・声の大きさ・立ち位置など支援の必要な生徒の役割も考えるよう気を付ける)</p> <p>完成した班は練習を始める</p> <p>・実際に自分たちが設定した人物がどのように感じているかを考える。 班で交流しワークシートに記入</p>
<p>5分</p>	<p>まとめ</p> <p>・個々に感じる事ができたか? 多様な考え方があることに気付いたか? ・今日の授業の感想を書く ・挨拶をする</p>	<p>考えることが出来たか聞く 紙を配る</p>	<p>それぞれが1時間を振り返り感想を書く</p>

「いま、どんなきもち？」(中学校) (2/2)

本時の目標 ロールプレイを見ながら、多種多様な感じ方があることを知り、次に生かす
 本時の展開

時間	指導過程	活動内容	
		教師の働きかけ	児童の反応・活動
5分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする 導入 <ul style="list-style-type: none"> 前回の寸劇に対する感じ方を思い起こす (多様な感じ方) 	例で挙げた寸劇の感想を簡単に紹介	
30分	展開① 班ごとに作った寸劇のプレゼン グループワーク 登場人物の感じ方を考える 個人作業 展開② 各班のロールプレイごとにその登場人物の感じ方をクラス全体で交流する 各場面で多様な感じ方をする ことを理解し、それぞれに応じた声かけや、やり取りが必要なことを知る。	ワークシートの配布 個々に発表 出てきた意見を板書で簡単にまとめる 生徒に考えさせる 数人に発表させる	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとのプレゼンを見る 自分の発表以外のプレゼンに対して全登場人物の感じ方を書く ワークシートに個々で記入 見て→書く を繰り返す 他の人がどんな感じ方をするか知る 場面や人に応じた声掛けややり取りを考えてみる発表
5分	多様な感じ方があることを確認 個々の立場や考え方の違いを理解し、相手を思いやる大切さを知る。 <ul style="list-style-type: none"> 今日の授業の感想を書く 挨拶をする 		それぞれが1時間を振り返り感想を書く

絵本「じゃんけん ポン アイコでしょ」

本時の目標 「男の子らしく」「女の子らしく」について考え、自分らしく生きることの素晴らしさを知る。

展開

	子どもの活動	留意点・支援	準備物
導入	<p>1. 本時のねらいを知る。</p> <p>「男の子らしく」「女の子らしく」について考えよう。</p> <p>2. 好きなものについて交流する。</p> <p>・色 ・遊び など</p>	<p>・男の子と女の子で差がでそうな項目を選ぶ。(色だとピンクなど)</p>	<p>ピンクの紙</p>
展開	<p>3. 「じゃんけんポンアイコでしょ」を聞く。(P.8まで)</p> <p>・「おとこって、ないちゃだめなのかな」というセリフについて考える。</p> <p>涙を流した経験を交流する。</p> <p>・「なきたいきもちも、みんなおなじなのに。」というセリフについて考える。</p> <p>4. 「じゃんけんポンアイコでしょ」を聞く。(P.9～P.14まで)</p> <p>・りんごの皮むきを見た男女の反応の違いを読み取る。</p> <p>・クラスが言い合いになっている場面を聞き、自分の意見が男の子と女の子どちらに近いか考える。</p>	<p>・自分の生活を振り返り、「感動したり」「悲しかったり」して涙を流した経験を考える中で、ゆうくんの気持ちに寄り添うことができるようにする。</p> <p>・りんごの皮むきができることのすごさを感じさせるようにする。</p> <p>・すごいと思うことも「～らしさ」によって、そうならないことの矛盾に気づかせる。</p>	<p>泣いている場面の拡大図</p> <p>皮むきの場面の拡大図</p> <p>言い合いの場面の拡大図</p>
まとめ	<p>5. 最後のケイちゃんの考えを読み、「自分らしく」生きることの素晴らしさについて知る。</p>	<p>・導入で聞いた質問や「ねらい」に戻し、考えるようにする。</p>	

平成25年12月4日(水) 第6時限 3-4 教室

第3学年4組 37名

箕面市立第二中学校 教諭 清水 麻美

1、デートDVと背景にある問題(単元観)

デートDVは単に「暴力」の形を指すのではなく、恋愛関係にある二人の間に起きる「暴力による支配・被支配関係」を指す。つまり関係性の問題である。

暴力の種類には、「身体的暴力」、「ことばの暴力」、「束縛の暴力」、「お金と性の暴力」等があり、それらが重複することも多く、繰り返されエスカレートしていく。

デートDVは一方が、相手を自分の思いどおりにコントロールするために暴力という手段を使い、相手の自己決定権を侵害し自尊心を著しく傷つける行為で、犯罪行為をも含む重大な人権侵害である。デートDVが生じる背景には、「こうあるべき」という性の固定的役割分担意識(ジェンダー意識)、また、恋愛関係という親密な関係にある相手に対する特権意識や二者一体であるべきという誤った意識がある。このような意識は、過去から現在における男女の社会的地位や経済力の格差、女性の人権軽視のなごりや暴力容認の風潮等、男女が置かれてきた社会的・構造的問題が色濃く影響しているため、個人の問題ではなく社会的な問題として捉える必要がある。

デートDVは、誤った意識や行為が依然として「当然」とされていることが多い社会の中で起きるため、当事者も周囲も暴力を暴力と気づけないことが多い。そのため、支配・被支配関係は継続、エスカレートし、被害者の心身や人生に重大な影響を及ぼす結果にもなりかねない状況がある。

2、単元目標

①デートDVに関する正しい理解を再度、身につけさせる

*デートDVの実際、概念、定義、発生要因、内包される問題など

②人権意識等の醸成を身につけさせる

*基本的な人権についての知識と考え方

*偏見の除去、他者尊重、暴力を許さない感覚と意思

*力関係による支配・被支配の関係性

③人格形成への手立てを考えさせる

*自己理解の促進、自身の価値観や考え方の再認識

*社会規範や価値規範の理解の促進

*自己肯定感や自尊感情の醸成

④自主的に考えて行動する力を育成させる

*客観的な判断能力の形成

*具体的行動やコミュニケーションをイメージする力

*他者尊重に基づく対等な関係の構築

3、生徒観・指導観

本授業の生徒は反応がよく、全体的に真面目に取り組む生徒が多い。しかし、昨年度に講師を招き、デートDVの授業を行なっているため、内容は把握済みである。そのうえでの授業なので、どのような反応をするかよめないが、復習を兼ねて授業を進めていきたいと考える。

- 1 日時・場所 平成25年(2013年)12月4日(水)6限 3-4教室
- 2 単元名 デートDV
- 3 本時の目標 デートDVが人権侵害であるという「本質」について正しく理解しよう
- 4 本時の展開 (1/1)

教師の発問・指示	生徒の予想される反応・取組	指導上の留意点 支援の方法
<p>・挨拶をする</p> <p>・本時の内容を説明する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">導入：14:00～（3分）（確認する）</div> <p>1) 昨年学習したデートDVについて内容を覚えているか問う</p> <p>2) デートDVの意味を提示する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">展開①：14:03～（10分）（知る）</div> <p>1) プレゼンを見せる</p> <p>【内容】</p> <p>①こんなときどうする？</p> <p>②デートDVの種類</p> <p>③もし被害にあったらどうする？</p> <p>④もし相談されたらどうする？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">展開②：14:13～（20分）（考える）</div> <p>“こんなときどうする？”の対処方法を考える（個人で→班で交流→1つの意見を発表）</p> <p><学習内容>束縛編</p> <p>*AさんとB君は最近付き合い始めた</p> <p>*B君はC君とメールをしながらAさんへの返信が遅れた</p> <p>↓</p> <p>AさんはB君に怒ってしまった</p> <p>「何ですぐ返してくれなかったの?!」</p> <p>（この関係は対等な関係?）</p> <p>*対等な関係をもつにはどのように接すればいいのか、を考える</p>	<p>挨拶をする</p> <p>*なんとなく覚えている</p> <p>*デートDVの意味を確認する</p> <p>*プレゼンを静かに見る</p> <p>*個人で考える</p> <p>*班で交流する</p> <p>*班で発表する</p> <p>B「友達とメールしててん。遅くなってごめん。」</p> <p>A「メール返ってこなかったから心配しててん」</p> <p>B「友達とメールすることもあるからなあ。また今日送るわ!」</p>	<p>生徒の反応や発表を聞き逃さない。</p> <p>デートDVの意味を提示する</p> <p>班で話し合っているか確認する</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">終末：14:30～（12分）（まとめ）</div>		

「デートDV」公開授業ふりかえり

日時・場所：平成 25 年（2013 年）12 月 4 日（水）

単元名：「デートDV」

生徒の反応：～メールの返信～

○ 2 人がお互いの気持ちを大切にしたい言い方を考えてみよう。

B：①謝る（18人）

「ごめんCとメールしてて忙しくて、打つひまなかった」「遅れてごめん」

⇒A：「そうなんや。それはしかたないね。」「あ、そうなん。ごめんね。」

⇒B：「いいよ。こっちこそごめん」

「Aも返信いつでもいいからね」

「お互い無理ないようにゆっくりしよう」

「できるだけはやく返すようにするけど遅かったらごめん」

A：「謝ったから一応ゆるす」「次はすぐ返してや」⇒B：「わかった絶対返す」
「頑張るわ」

A：「じゃあ私とだけメールすればいいやん」⇒B：「それは無理」

B：②事実を伝える（11人）

「友だちとメールしてて遅くなった」「Cとメールしてて全然気付かなかった」

⇒A：「そうなんや」

「返信遅いから心配やった」⇒B：「ごめん。今後気をつけるわ。」

A：「なんで？」⇒B：「友だちとの関係も大切にしたい」

A：「すぐに返してほしかった」⇒B：「これから早く返すわ」

「うそ！本当のこと言って」⇒B：「寝ててん。ごめん」

B：③抗議（2人）

「その時間もわずかであり、さしつかえが出たとは思いませんでしたが」

「Cに相談されてん。Cは大切な友だち。なんでも、かんでもAを優先にするのはおかしい？」

⇒A：「わたしはすぐに返してんねんから！わたしのことはどうでもいいんや！もうええし！」⇒B：「それは、デートDVの束縛にあたります。」

A：「そうやな・・・。でもうちは早く返してるのに。でも相談されたらしゃーないな」⇒B：「うん。もしかしたら勉強とかあるし、おくれるかもしれへんけど、わかってくれるやんな。」

B：④ごまかす（1人）

「空から女の子が降ってきて・・・」

⇒A：「その王女ってもしか・・・」

束縛する束縛される関係

○考えたこと感じたことを書こう。(授業後の生徒の感想)

- ・ 付き合ったことがない人にとっては難しすぎる授業でした。未来に使う機会があることを祈ります。
- ・ 対等な関係にできるように、言いたいことをすぐに言う前に頭で一度考えてから発言することが大切だと思う。相手の気持ちを考えなければならない。
- ・ 優しく言うことで、相手は許してくれることもあるという事が分かりました。友だちに頼ることも大切だという事に気が付きました。
- ・ 付き合うには、人の気持ちも大切だけど、何より自分が大切なんだと思いました。嫌なことははっきり嫌といえるような関係にできるようにすることがいいんだと思います。
- ・ 正直こんな関係やったらとてもめんどくさいと思った。何事も自分のことばかりじゃなく、相手のことも考えて行動しないといけないと改めて思った。
- ・ 発表したときはずかしかった。デートDVしたらあかんなと思った。
- ・ 今日の授業でデートDVはとても恐ろしいことだと分かった。これからこのようなことが起こらないように気持ちに余裕をもってしていきたい。
- ・ 相手のことを考えることがとても大切なんだと改めて感じました。
- ・ なかなかむずかしいと思った。いろんな種類のものがあるんだと知った。
- ・ 自分のことばかりじゃなく相手のことも考えられるようにしようと思う。それは友だち関係においても同じだと考える。
- ・ 改めて考えてみてちゃんと人の気持ちを考えてこうどうしないといけないと思った。将来絶対にこういう関係になりたくないと思う。
- ・ お互いのこと尊重し合って、対等の関係を築いていけばいいんだと分かりました。どっちかだけが傷ついたりするのはいけないと思いました。
- ・ 何気なくしたことがデートDVにつながるおそれがあるので、慎重に付き合うべきだと思った。責任とれる行動が何より大切だと思う。周りに助けを求めることも大切と思う。
- ・ 友だちに相談することも大だし、気付くのも大切だと分かった。
- ・ こういったことをしないように、思ったこととかは言った方がいいんだなと思いました。
- ・ 自分の行動が世間に対しどう評価されるかが大切。
- ・ これからの人との付き合い方が分かってよかった。いろんな考え方ができてよかった。
- ・ こんなこと考えたことも、自分の周りでおこったこともないのでこの授業を通して初めていろいろデートDVについて知れました。デートDVにもいろいろ種類があるんだと初めて知れたので自分が加害もしくは被害にあわないようにしたいと思いました。
- ・ 今回授業をしてちょっとしたことでも相手を傷つけていることを知りました。相手のことをしっかり考えて行動しなければいけないと思いました。
- ・ 相手の気持ちを考えずに自分の意見を相手におしつけてもいいことが一切ないことを改めて今回の授業で学んだ。
- ・ とてもおもしろくDVのことを勉強できた。デートDVはとても怖いことだと分かったので、だめだと思う。
- ・ いやはやたいへんですね。
- ・ 改めて、デートDVってこういうことを言うんだ！と思った。少しこわいことだと感じた。

- ちょっとしたことでもデートDVになるんやなあって思いました。自分がしないように気を付けたいなと思いました。
- 自己中心的な考えはだめだと思った。人の気持ちが大切だと思った。
- デートDVをする人は最低だと思う。人間は個人個人気持ちが違うから操るのはだめと思う。そうになったら別れたらいい。
- 寸劇はもうしたくないと思った。デートDVの恐さは分かった。
- お互いの気持ちを大切にしながら付き合わなあかん。
- お互いの気持ちを考えたらデートDVはおこらないんじゃないかなと思った。
- こんなAさんみたいにならないようにしたいですし、こんな人とつきあいたくないと思いました。気を付けたいと思いました。
- 人間関係がとても大切だととても分かりました。
- めんどくさいと思った。正直こんなグループは別れればよかった。
- みんな言うことは違うけど優しい言い方をするだけでけんかにならずにすむことが分かった。
- うん。めっちゃ怖いと思ったから、自分が思ってることはちゃんと言ってお互いが楽しくなれたらいいと思う

絵本から見えてくる異文化

目 標：(箕面市外教、人権教育学習プログラムから)

いろいろな国の文化や生活にふれ、その違いを認め合うことによって異なる文化への理解を深める。

対 象：第三学年

ねらい・絵本を楽しみながら、私たちの暮らしとは違った暮らしがあることに気づき、親しみを感ずる。

- ・友だちの発表も聞き、たくさんの文化や暮らしに興味を持つ。

展開

	学習内容・子どもの動き	指導上の留意点・教師の動き	注意点
1 時 間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・「三年とうげ」の話を思い起こし、学習するときに感じた日本との違いを確認する。 ・今まで学習したほかの話でも違いのあるものがあつたことを思い起こす。 ・グループごとに、調べてみたい絵本をみつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「三年とうげ」のお話を思い起こさせる。 ・「おおきななぶ」や「スーホーの白い馬」などの話を思い起こさせる。 ・韓国、ロシア、モンゴルなどの地図上の位置を知らせる。 ・いろいろな国の絵本を用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図を用意しておく。 ・添付資料参照
2 時 間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて選んだ絵本の中から日本とは違う暮らしや文化などを調べる。 ・みんなに知らせたいことをまとめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べながら、違いだけでなく同じところにも目を向けさせる。 ・調べている絵本の国について調べさせてもよい。 	
3 時 間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ えらんだ理由 ◇ 気づいたこと ◇ 感想 ◇ 疑問 ◇ もっと調べてみたいことなど 最後に質問を受ける ・ほかのグループの発表を聞いて違う文化もあることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの発表を聞き、調べた国以外の国のことも知り、興味を待てるようにする。 ・時代によって違うものもあることを知らせる。 	

研究チーム 豊川南小：伏屋 西南小：河合 とよかわみなみ幼稚園：高岡 中小：川端

『ええぞカルロス』

人権教育教材集の中の読み物教材を活用し、カルロスやあきらの気持ちに気づき、自分の生活をふりかえる。

目 標：(箕面市外教、人権教育学習プログラムから)

在日外国人との共同での取り組みや出あいを通して、それぞれの文化や考え方を尊重し、ともに生きることの大切さを学ぶ。

ねらい・文化や言語の異なる環境におかれた登場人物の気持ちを知る。

- ・自分事としてとらえ、気持ちよくかかわりあえる関係について考える。
- ・自分や友だちの考えや思いを伝えあう。

対 象：第四学年～第六学年

留意点：クラスに外国の友だちがいる場合とそうでない場合の教材の取り扱いについて留意する。

展 開

時間	学習活動	教師の役割	子どもの予想される反応、配慮など
2分	<p>【導入】</p> <p>○めあて、学習の流れの確認</p>	<p>・登場人物の気持ちを知る</p> <p>・自分や友だちの考えや思いを伝え合う</p>	
35分	<p>【展開】</p> <p>○『ええぞカルロス』を読む</p> <p>○登場人物の気持ちを読み取る</p>	<p>○範読する</p> <p>○カルロス・・・気持ち あきら・・・行動 をおさえる</p> <p>Q1:カルロスは何に困っているのかな？</p> <p>Q2:自分はカルロスに何ができるかな？(10P)</p> <p>○黒板に絵のみカラーで提示する</p>	<p>・何を言っているのかわからない</p> <p>・遊びたいのに遊べない</p> <p>・声をかける</p> <p>・仲間に入れる</p> <p>・得意なことを聞く</p>

		<p>Q3：自分だったらどんな行動、声かけができるかな？ワークシートに書きましょう（11P） ○黒板に絵のみカラーで提示する</p> <p>Q4：自分がカルロスだったら、言葉がわからない時どうしますか？</p> <p>Q5：声をかけられた時、どんな気持ち？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「一緒に運動行こう」と言う ・手をひっぱって行く ・絵を描く ・だまってしまう ・手ぶりで伝える ・何もしない ・一人で遊ぶ ・声をかけてもらってうれしいな ・ほっとした気持ち ・一緒に遊べる ・にっこり
5分	<p>【ふりかえり】 ○ふりかえりを書く</p>	<p>○ふりかえりをワークシートに T：友だちの意見や自分の考えを通して、考えたこと、感じたことをワークシートに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている時、声をかけてもらったらほっとすることがわかったので、友だちが困っていたら、声をかけようと思った。 ・自分がカルロスだったら、何をしていたか戸惑ってしまうと思った。だから、相手の気持ちを考えて自分が声をかけるなど、行動したらいいと思った。 など
3分	<p>【まとめ】 ○共有する</p>	<p>○自分の生活に生かしている意見を共有する。</p>	

研究チーム 萱野北小：高瀬 萱野東小：宮部 豊川北小：池田 箕面市国際交流協会：金
萱野小：松藤 南小：神崎 箕面小：岡村

「つないで、手と心と思い～目で見える在日 100 年史～」を利用した多文化共生授業

ねらい・社会科公民で取り扱った「在日韓国・朝鮮人」の内容を深める。

- ・在日韓国・朝鮮人の歴史的背景について正しく理解する。
- ・在日韓国・朝鮮人の思いを知る。

対 象：中学 3 年生

単元計画（全 5 時間）

- 第 1 時 「平等権と共生社会」（社会科公民）
- 第 2 時 「つないで、手と心と思い～目で見える在日 100 年史～」を読む **（本時）**
- 第 3 時 「つないで、手と心と思い～目で見える在日 100 年史～」を深める①
（わからないことなどを補足する）
- 第 4 時 「つないで、手と心と思い～目で見える在日 100 年史～」を深める②
（班などで、意見を交流する）
- 第 5 時 当事者の思いを聞く、知る…当事者の方の話聞く

展 開

時間	学習内容・子どもの動き	指導上の留意点・教師の動き
導入 (20分)	社会科で学習した内容の復習	○クイズ形式で子どもたちのもつ既習知識を問いながら、確認を行っていく。また、クイズの内容に「目で見える在日 100 年史」の内容や現在の日韓関係に関するものもいれる。 既習事項 ・選挙権、公務員の国籍条項・就職、結婚などの差別問題 ・韓国併合・大阪朝鮮高級学校のラグビー など
	ねらい 「なぜ、在日韓国・朝鮮の方が多く日本で生活しているのか。」を考えていく。	
展開 (27分)	一度自分で黙読し、分からないこと、疑問に思ったことを書き出す。 →班にして、お互いの疑問を話し合う。 →全体でわからなかったことなどを出し合い、考えていく。	「目で見える在日 100 年史」を紹介し、紙芝居形式で物語を読む。 その後、「目で見える在日 100 年史」の本を渡す。 ・その場で明確な回答ができそうな疑問に関しては返していく。
まとめ (3分)	「わからなかったこと、疑問に思うこと」を提出。	疑問や正しい理解が必要な部分については、次回説明することを補足する。

在日100年史を使った授業案(中学校部会)

指導の流れ

教科授業から総合・学活・道徳の時間を使って展開していく。

1. 社会の授業を受けて展開を考える。(2②の学習を事前に済ませる。それを受けて次の2からの展開につないでいく。)

2. つないで、手と心と思い～在日100年史～を利用する。(3時間程度)

① 文章の中から疑問に思うことをかき出させる。

ねらい：日韓併合後の100年間の在日の人たちの歴史を、一つの家族の物語としてとらえて読み解いていく。

歴史背景を考えてみよう。分からなければ疑問点として挙げてみよう。

読んで考えたこと、感じたことを挙げてみよう。

生徒の作業

① 「在日100年史」を黙読させる。

② 語句についてわからない言葉をメモ書きさせる。

・ 読後、分からない言葉を挙げさせて、教師が説明していく。

③ もう一度、黙読させる。

・ 登場人物の胸中について生徒に考えさせる。登場人物の行動が自分の考えに一致しているかどうか。読みながらメモ書きさせる。

④ 読後、疑問に感じたこと(胸中や行動など)を挙げていく。

・ みんなの考えたこと、感じたことを全員で共有する。時間内に交流しきれなかったことは後日、学年通信等の利用で共有していく。

② 考えさせたいことを絞って生徒に伝える。

ねらい：在日の歴史を、ある家族の物語を通して理解を深めていく。

下記の例の中から、深めたい内容を生徒の課題として提示する。

例 i 在日に至る歴史について(日韓併合・大陸への進出・太平洋戦争・朝鮮動乱による南北分断)

なぜ、終戦後家族そろって朝鮮半島に戻らなかったのか

ii 本名を名乗ることについて(在日への差別・制度上の差別)

iii 在留許可について(指紋押捺制度、在留許可証) = 制度上の差別 =
なぜ、指紋押捺制度があったのか

iv 在日の方の権利と義務について(納税の義務・参政権) …記述されていない。
= 制度上の差別 =

v 在日外国人に対する差別について(就職・結婚・居住) = 在日への差別 = なぜ、警察は事件が起こると調べに来たのか

なぜ、朝鮮征伐のはなしを聞きたくなかったのか

生徒の作業

- ⑤ 前時に考えた疑問点を書きだしたプリントを黙読させる。
 - ⑥ 物語を黙読させる。
 - ・ 物語の内容から、ねらいにそった生徒の疑問点を考えさせる。プリントに生徒の考えをまとめさせる。または、書き出させる。
 - ・ 考えを深めさせるために調べさせる。
- ③ 考えたこと、調べたことを共有する。学年通信等の利用
ねらい：②の項目について考えを深めていく。みんなが考えたことを自分の考えをプラスして深めていこう。

聞き取りの時間に聞きたいことを準備しよう。

生徒の作業

- ⑦ 前時に上がった疑問点をクラスで確認する。
- ⑧ 他の生徒の感じたこと、考えたことを参考にして自分の考えを整理してみる。シートに書く。後日共有し合うためのプリントを作成し配布する。
- ・ 聞き取りに際して、聞きたいこと、準備しておきたいことなどを生徒に上げさせて、聞き取りの時間に意識をもって臨めるように準備させる。

3. 当事者の方からの聞き取り。(2時間程度)

ねらい：物語の中で、疑問に感じたことを聞いてみよう。

当事者の方の物語を聞いてみよう。

当事者の方と共感できることをつかんでいこう。

生徒の作業

- ・ 聞く。
- ・ 質問する。
- ・ 生徒たちの感じたことを当事者の方とともに交流する。

ホームレス問題から身のまわりの問題を考える

箕面市立第二中学校

授業者 田渕 浩昭

1. 対象 中学1年生
2. 日時 2014年1月23日(木) 5・6時間目
3. 教科・領域 総合的な学習の時間
4. 教材観

格差と貧困の問題は、ようやく日本社会の主要な課題として認識されるようになった。その先端的な課題が「ホームレス」問題である。すべての人に健康的で文化的な最低限の生活が保障されるはずの日本で、数万単位の人が住む家もなく路上や公園・河川敷・ネットカフェなどで生活することを余儀なくされており、社会から支援・保護よりも差別・偏見の対象とされている現状がある。「横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する」という新学習指導要領の総合的な学習の時間の目標に照らしても、優先的に取り組む価値のある課題であろう。

しかし、「ホームレス」とは一時的な生活の状態であり、他の人権課題とは違い、差別偏見にさらされている当事者がその生活を自らの口から語るということは難しい。そのため、この問題を共感的に理解し、問題を解決しようとする資質を育てることができる教材は今までほとんどなかった。

本教材はその壁を乗り越え、当事者の声を教室に直接届けるだけでなく、夜回りをする子どもたちの姿をとらえることで、生徒一人ひとりが自分との関係を考える契機になる力があると考える。今もなお社会に強固な偏見差別が存在し、若者による「ホームレス」襲撃事件が起きている状況を変えるためにも、この教材を利用した授業が多くの学校で取り組むことが必要である。

*世の中には、さまざまな人が、さまざまな状況・立場で生活をしていることを知り、自分の学校(クラス・クラブ等)の状況と重ね合わせて、差別や偏見を見ぬき、仲間と協力して正しい行動を起こすきっかけになると考える。

5. 本時の目標

- ・路上生活者の生活と路上生活に至る原因について知り、無知から来る偏見と差別を減らす。
- ・若者による「ホームレス」襲撃事件が頻発している現状を知り、くり返さないためには何が必要かを考える。

*「ホームレス」の人たちのことから、自分たちの身の回りの出来事(いじめや仲間はずれ)を重ね合わせて、自分の間違いに気づき他者を正しく理解することを学ぶ。そして、他者と対等な関係で接することができるようになる。

*自分の意志とは関係なく置かれた立場の人がいることを学び理解し、自分の出来ることを考え行動できるようになる。

6. 本時の展開

		学習内容	予想される生徒の反応と指導上の留意点
0	プレ導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「二中は好きって胸を張って言える人？」 ・友だちは何人？1000人とか言う人いますか？ ・名前を「ちぶた」と呼ばれていじめられたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> *最近の1年生を見ていると心配。 *友だちを知り合いと勘違いしない。 *名前なんて自分ではどうしようもないこと。それでいじめられるなんてことはおかしい。
1	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りには、様々な人がいることを知る。 ・「ホームレス」の言葉を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> *以前に行った多文化理解学習のことにもふれる。 *生徒から差別的な笑いや発言が出ることもあるが、同調せず、しかしとがめることはしない。 ・「ホームレス」は状態を表す言葉であり、人を表す言葉でないことを確認する。
2	展開	DVDの視聴（30分間） ワークシート1を行う。 班で交流する。 全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> *一人で、しっかり考えて書きこむ。 *生活班で、交流する。 *何班かだけ、全体の前で発表する。
3	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスに戻り、ワークシート2を行い、交流する。 ・全体交流をする。 ・各担任の想いを語る。 	<ul style="list-style-type: none"> *色々な人が居て当たり前であるということと、自分の意思でなくそういう状況（立場）になっている場合があることをきちんとおさえる。 *クラス（学年）の話しに戻し、このような状況で排除（いじめ）されていないかの問いかけ。 *担任から自分の経験でなにか話せることがあれば。 *さまざまな問題について、他人事ではなく自分事として考えていくというおさえ。 <p>*夜回りを簡単なこととしないように！！（絶対）</p>
4	発展	<ul style="list-style-type: none"> ・（時間があれば）子どもたちが、今、自分の悩んでいることや思っていることを語り、その思いを受け止める。（今後でもOK） 	<ul style="list-style-type: none"> *押し付けにならないよう配慮する。

7. 評価

- ・路上生活者の生活と路上生活に至る原因について理解し、無知から来る偏見と差別を減らしたり変えたりするきっかけができたか。
- ・若者による「ホームレス」襲撃事件が頻発している現状を知り、繰り返さないためには何が必要かを考えることができたか。
- *自分の身の回りの出来事に重ねあわせることができたか。
- *自分の意思とは関係なく置かれた立場の人が、身の回りにもいることを理解できたか。

「ホームレス」問題について考える ワークシート1

1年()組()番 氏名()

1. 今回授業を受けて、路上生活の人への見方が変わりましたか。変わった人は、どのように変わりましたか？



2. もし、あなたが、友だちから「一緒にホームレスをからかいに行こう」と誘われたら何と答えると思いますか？



3. 襲撃事件をなくすにはどうしたらいいでしょうか？

それでは、クラスへ戻って、自分のまわりのこと（クラス・クラブ・友だち）について考えましょう。
そして、胸を張って、「二中が大好きやねん！」と言えるようになりましょう♪
今日は、お話を聞いてくれてありがとう！

「ホームレス」問題を学び、身の回りの問題を考える ワークシート2


1年()組()番 氏名()

1. 自分の身の回りで、困った状況にある人はいませんか？その人は、どんな状況の人ですか？




しんぼん

2. 1のような人がいた場合、自分はどのような行動をしますか？



3. 今回の授業への感想その他をいっぱい書いて下さい。

4. 書ける人だけで結構です。自分自身、悩みごとや嫌なことはありますか？具体的に書いて下さい。(人に話せる範囲で！)



すきり

V 研究によせて

①「人権尊重の視点に立った学校づくり」(学習会講演記録 再掲)

スーパーバイザー 神野ちどり 元東大阪市立枚岡東小学校長

人権教育のモデルカリキュラムづくりや授業プログラムづくりを進めていく前提となる学校づくりについて話をしたい。

子どもの人権感覚や自尊感情が高まるような学校づくりが必要である。子ども達を取り巻く社会の状況は、厳しさを増してきている。特に学校・家庭・地域等に居場所のない子ども達やおとなが増え、不登校、陰湿ないじめ、虐待、過干渉などに現れてきているのではないだろうか。厳しい状況の社会を生きる子どもたちの人権感覚や自尊感情を高めていくことの必要性を感じ、学校教育に求められるものが見えてきた。これまでの人権教育が大切にしてきたことを振り返り、一人ひとりの人権が尊重される教育を考える機会としたい。

人権教育を進める上で、教職員のつながりは大切である。子ども達にお互いに認め合える(尊重し合える)関係のすばらしさを教えるためには、まず教職員の関係づくりが必要ではないだろうか。違いや個性を認めながら、協力して子どもたちの課題解決に向かっていける教職員集団づくりや学校づくりが大切である。

また、教職員の人権感覚や人権問題についての知識は、高め続けていくことが大切だと考える。人との関わりの中で高められることが多い人権感覚や、知識をどの機会に自分のものとしていくのか。






私は、子ども達や保護者、身近にいる教職員との出会いの中で、たくさんのことを学んできた。子どもとつながりきれなかったことで、学級集団が高まらず悩んだ時も、先輩の先生方に、子どもの背景をつかむまで、とことん関わることの大切さを教えてもらった。家庭訪問、日記指導等を行っていきうちに、心が通じ合えそうだという手ごたえを感じることができた。「先生、不安やねん。」「こんなことって本当にあるの?」と心の内を出してきた子ども達を見て、自分の足りなさを実感した。生活を語る子ども達や保護者、地域の人達から、学ぶこともたくさんあった。顔をみながら直接話をする中で、お互いに理解し合えるという当たり前のことも再確認しながら、家庭訪問等を大切にしてきた。

人権尊重の視点に立った学校づくりを進める上で、もう一点大切にしたいのは、系統立てた「学習のねらい」の構築である。例として東大阪市人権学習プログラムの中の「学習のねらい」を見てもらいたい。(下図)

中学校区での連携を基本として、就学前から中学校(高等学校)までを見通した「育てたい力」を示している。子ども達や地域・家庭の実態や課題によって変わるものであるが、人権教育を進めるうえでの基盤になると考えている。特に強調したいのは、個人権課題の学習の「たがやす」という段階が、自分と周りの人達との関係性や自尊感情を高めることにつながり、人権教育の基礎体力として中心にあり続けるということを示している。

箕面市で進められている人権教育のカリキュラムづくりの中でも、系統立てたねらいが大切にされていて、このねらいに基づいたモデルカリキュラムづくりが昨年度より進められている。このことは、個別の人権課題の学習をより効果的に展開することができると思う。



	同和教育	在日外国人教育	障害児教育	男女共生教育	平和教育
 ステージ 5	み の る 同和問題について学んだことを自分の生活や生き方につなげ、自分の進路を切り拓き、差別のない社会の実現に向けて行動する。	国際社会の中で生きる人間として、違いが豊かさであるという認識を持ち、お互いの人権を大切に、ともに生きていこうとする。	インクルージョンの理念を自らの生き方につなげ、障害者とともに生きる社会の実現に向けて行動する。	自らの能力や適性を活かした生き方を主体的に選択し、自分らしく生きることのできる男女共同参画社会の実現に向けて行動する。	過去や現在の紛争等国際的な諸問題について学習し、平和な社会の実現に向けて自分ができることを考え行動する。
 ステージ 4	の び る 自分のまちを人権の視点で見つめ、人にやさしいまちづくりのために自分たちができることを考え、気づいたことを発信する。	ささまざまな国にルーツを持つ人が、日本で暮らす状況を理解し、差別や偏見のない社会の実現について考え行動する。	障害者に対する差別や偏見のない、共生社会を実現するために、自分ができることを考える。	固定的な性別役割分担意識にとらわれないこと、自らの行動や生き方について考える。	戦争や平和についての学習を通じ、国際理解や国際協力の重要性を理解し、平和な社会の実現について考える。
 ステージ 3	め ぼ える お互いの違いを認め合い、豊かな人間関係づくりを行なう。自分の思いを伝え、仲間のことを知り、仲間を大切にすることを大切にする心を持つ。	まわりにはさまざまな国にルーツを持つ人が住んでいることを知り、その文化に触れることにより、異なる文化への理解を深める。	障害のある人の思いを知り、お互いの「自分らしさ」を大切にする。	自分の心と体をまもる大切さを学び、「かけがえのない自分」を大切に、お互いを認め合う。	日常生活において、発生するさまざまな対立を平和的に解決しようとする。
 ステージ 2	た が やす		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人との関わりを通して、自分や友だちがかけがえのない存在であることに気づく。 ・友だちとの関わりを通して、お互いの良さや違いについて気づく。 ・自分の気持ちを伝え、いろいろな考えのあることに気づく。 ・生活の中で自然や人とふれあい、生命の尊さを知り、自らの生命を大切にするとともに、生命あるものを大切にする。 		
 ステージ 1			<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人とのふれあいの中で、自分が大切にされていることに気づく。 ・友だちとの遊びを通して、お互いの良さや違いについて気づく。 ・生活の中で自然や人とふれあい、生命の尊さを知る。 		

子どもたちが成長していく上での学習のねらいを、人権基礎教育9つの観点をふまえて、ステージ1～5で構成しています。あくまでめやすであり、地域や学習者の実態に応じて、弾力的に活用してください。

参考：「東大阪市人権学習プログラム（学習のねらい）」 平成18（2006）年3月
東大阪市教育委員会

② 江戸時代の身分に関する学習を進めるにあたって

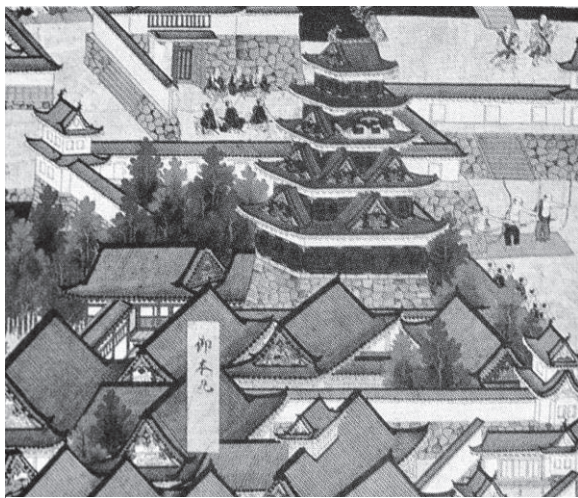
～授業を進める上での視点やポイントとなることから～

大阪市立大学人権問題研究センター

上杉 聡

1 江戸時代の身分は、その前の時代と、どうつながっているのか

2000年までの小中の歴史教科書は、江戸時代の身分のうち、部落だけが「突然」この時代に作られたかのような不自然な記述をしていました。しかし、江戸時代に存在した武士、百姓・町人の身分はすべて、それ以前の中世に見いだすことができます。こうした人びとが江戸時代前の教科書部分に、様々な名前で書かれていることを、まず子どもたちに探させ、確認してみるのもひとつの方法でしょう。



創建当時の江戸城本丸（1633年頃）

そうした人たちが、刀狩りや検地をへて武士と庶民（百姓・町人）へとはっきり分けられ、武士は帯刀して城下町に住み、お百姓は田舎に、町人は城下に住むことが定められました。そして武士は、自ら軍役を負う代わりに百姓に年貢を納めさせ、町人へも地税（地子）を納めさせ、またそれぞれに農地と町地の整備を負担させました。こうして武士・百姓・町人の制度が、江戸時代の初期までに明確にされます。

さらに、1600年代なかばに戸籍制度（宗門人別帳）が全国的に整備され、そこに身分と家族関係が登録され、一人ひとりの身分は「生まれで変えることのできないもの」とされました。こうして江戸時代の初期までに身分制は完成し、固定化されたのでした。中世から江戸時代にかけての身分の変

化とは、こういったものでした。

では、部落はどうだったのでしょうか。穢れていると見なして「非人」などと呼び、社会の「外」へと排除するとともに、その人たちに警察と清掃で社会を維持する「キヨメ」の仕事に課した差別は、すでに平安時代中期に生まれていたことが確認されます。室町時代になると、そうしたなかから庭づくりなどに活躍する人びとが出たことを小学校の教科書は書いています。中学校では、これを明確に「河原者」と書いています。

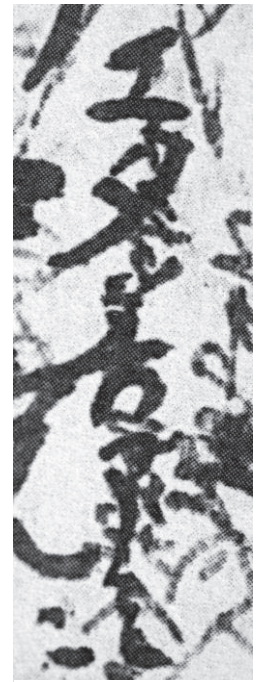
「河原者」の名前は、住む場所からきたと考えられますが、同時に、仕事からきた「屠者」、また人それ自身を指す「エタ」などの名称でも呼ばれました。「天下一の庭師」と高く評価され、多くの庭を作った高名な「善阿弥」さえ、「河原者」だけでなく「エタ善アミ」と呼ばれました（次頁「東大寺法花堂要録」文明3<1469>年7月）。

戦国時代に武具の皮づくりが盛んになると、仕事名として「皮多」が加わりますが、人びとから別なものとして差別されつづけることに変わりありませんでした。

安土・桃山時代から江戸時代になると、他の身分と同じように刀狩り、検地などを受け、さらに住む場所

を明確にされ、宗門人別帳にも登録されて「生まれで変えることのできない身分」制度のもとで、差別は強められていきました。「えた・河原者・屠者・皮多」などとまちまちに呼ばれていた状態も、「穢多」の呼び名へまとめられ、これが正式な身分名とされました。

このようにして、江戸時代の身分制度全体は、中世以来の差別を基盤として確立した、ととらえる見方が2000年代に大きく進み、いま小中学校のほとんどの教科書が、かつての「部落は江戸時代に作られた」とする記述を消滅させました。部落だけを「江戸時代に突如として生まれた」とする不自然な考え方から、身分全体の中に部落を位置づける広い視野へと変わりつつあることは、子どもたちが学ぶ歴史観として大いに歓迎すべき変化ですし、今日までつづく差別の根深さを考える点でも大切な視点となります。



「東大寺法花堂要録」

2 身分が固定した社会の姿

では、武士と百姓・町人、そして部落の各身分は、江戸時代、どのような関係にあったのでしょうか。これまで「士農工商えた非人」のピラミッド図式が、長く使われてきました。しかし、「士農工商」と「えた・非人」をひと続にした表現は、江戸時代に見当たりません。しかも、「士農工商」部分は、日本の江戸時代の言葉でなく、中国古代に使われていた「みんな」の意味をもつ四字熟語にすぎないことがわかってきました（「士」は武士でなく、専門的な知識人や役人～今なら「弁護士」なども）。

むしろ日本の江戸時代の身分としては、「武士」「百姓」「町人」の三つが主要で、「武士」には庶民に対し「切り捨てご免」¹の特権がありましたが、「百姓」と「町人」の間に上下の差別はなく、年貢や地子の納入と住む場所を整備する住民税（村役／町役）の違いだけで、共に「武士」に支配されていたことが明確になってきました。「工」も、身分として独立しておらず、田舎に住めば「百姓」、町に住めば「町人」でした。

では、それら主要身分から排除された「えた」や「非人」の人びとは、他の身分と、どのような関係にあったのでしょうか。

部落は、その発生から「警察と清掃」（「キヨメ」）役を負担してきたことが特徴です。部落の人びとは、彼らが付属する町や村の範囲を、犯罪と不衛生から守りました。警察業務は、「えた」と「非人」が共同でおこないましたが、清掃については、人の死体の焼却などを「非人」が、動物の死骸処理は「えた」が分担しました。清掃の際、処分する皮を、「えた」の人びとは大切な製品へと変えました。そして、「警察と清掃」の負担さえすれば、他に農業や商業をすることもでき、その場合、年貢や地子も納めました。部落の仕事は、社会にとって欠くことのできないものでした。

しかし、部落の人びとが住む場所は、近世になり城下町や村の範囲が明確にされると、その外部に付属させられ、しかし警察と清掃の仕事の都合から、完全な遠方ではなく比較的近郊に、掘、塀、垣根や藪などで隔離して住まわされました。庶民との日常的なつきあいは禁止されました。

部落の内部には、武士のような形の支配者（「穢多頭」など）を置き、付属する村や町の「警察と清掃」の仕事を統括しました。そして、部落内部の犯罪についても、自らの警察と裁判所で処罰しました。

こうして部落の人びとは、社会全体を支えたにもかかわらず差別され、宗門人別帳で「えた」や「非人」として身分登録されると、たとえ移動しても差別がつきまとい(宗門送り)、「生まれで変えることのできない身分」へと固定され、差別は強められていきました。

部落の人びとは差別により深く傷つけられましたが、差別する側の内部にも「村八分」や「シカト」のいじめ体質を生み、それが今の「いじめ」につながっています。逆に言えば江戸時代とは、「いじめ」を制度化した時代でもあったのです。

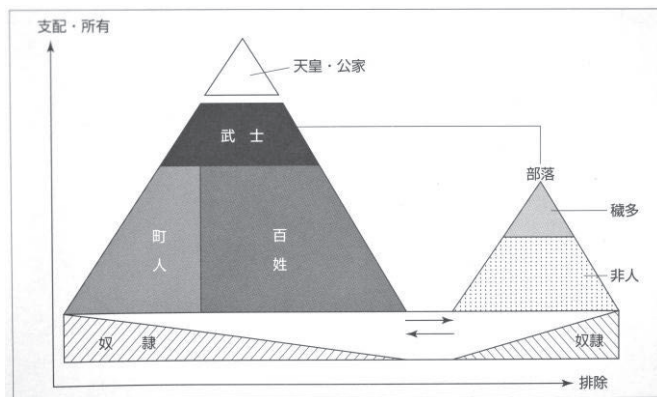


穢多頭・弾左衛門

3 身分社会の意義と問題点

江戸時代の身分図式を、天皇や公家を含めて表すと、左のようになると考えられます。「生まれ」で身分を移動できなくなったこの社会は、戦国時代をへて安定した社会を作るプラス面がありました。しかし、同時に、経済活動や技術、学問などの発展を阻害するマイナス面もありました。

その意味で、江戸時代は安定し、比較的豊かな社会となりましたが、それ以上の発展は押しとどめられ、やがて停滞していきました。



江戸時代の身分制全体の図

しかも、その社会の内部には厳しい身分制度があり、部落の人びとはもちろん、武士と百姓・町人、ひいては各身分の中にもあらゆる差別が置かれ、人びとを苦しめる社会でした。江戸時代も終わりになって諸外国と出会い、経済的にも制度的にも発達し人権を尊重する社会のあることがわかると、急速にその限界を露呈し、やがて明治維新へと進んでいくのでした。

- 1 「切り捨てご免」(無礼討ち)は「公事方御定書」(寛保2<1742>年)に掲載され、この規程が廃止される明治4(1871)年まで続きますが、慣習法としては、寛保以前に遡ると言われています。
- 2 朝尾直弘編『日本の近世7』(中央公論社、1992年)1~3章参照。
- 3 上杉聰『これでわかった! 部落の歴史』(解放出版社、2004年)第2~3回参照。

③「積み重ね」を大切にしたい人間関係づくり

若槻 健さん(関西大学)

平成25年(2013年)8月1日「夏季合同一日研究会」子どもの育ち専門部会

萱野東小学校では、昨年の1年生が「自分がすき 友だちがすき」をテーマに、行事や日々の授業、終わりの会などを活用した人間関係づくりに取り組みました。一日を振り返る「キラキラタイム」のとりくみは2年生でも行われ、「今日のきらきらさん」の発表は、継続して取り組むことで深まりが見られています。3学期に実施した研究授業「こんなともだちがいいな」では、友だちとの関係を考えました。新しいクラスになった2年生での、人間関係の広がりをめざした研究授業「ともだちつくろう 大きくせん」は、友だちの気持ちを考える、友だちの考えを聞き、自分の考えを伝えることをめあてに、スキル学習も組み込んで取り組まれました。このような萱野東小の実践報告から、人間関係づくりのとりくみに継続して取り組むことの大切さを確認することができました。



実践報告を受けたグループ交流は、「人間関係づくりにおいて取り組んでいることや大事にしていること」をテーマに、活発な意見交換が行われました。このグループ交流はいろいろな学校園種の先生方と話ができ参考になるということから、コミュニケーションカードでも毎年とても好評です。

若槻先生からは、人間関係づくりは各教科を含む学校教育全体で育まれるものであり、次の学年へと、また幼→小→中へと「積み重ね」ができるよう連携していくことが大切であるとお話がありました。また、つながるためには一定の基礎的なスキル(読み方・書き方・聞き方・話型など)も、自分の思いを言葉にする・伝える・相手の思いをわかろうとするために必要である。ただし、話型はあくまでも「補助輪」であり、最終的には自分でつながっていける力をつけることが求められるなど、人間関係づくりとスキル学習との関係も整理していただきました。さらに、つながりにくい子を受け止める子どもたち、身近な仲間関係に終わらず社会とのつながりにも関心を持ち、関わろうとする子どもたちを育てることに目を向けてほしい。そして、保護者との関係も含めた大人の人間関係づくりも大切にしていってほしいと、助言していただきました。

<コミュニケーションカードより>

- 「積み重ね」というキーワードを改めて感じました。箕面市の保・幼・小・中が同じ思いを持って子どもたちを育てていくことはやはり大切だと強く思います。若い先生方のとりくみや意見を聞くことができて良かったです。若槻先生のお話も、コミュニケーション力についてとてもわかりやすく有意義でした。「話型は補助輪」ということが興味深かったです。〔幼稚園〕
- 日々の学校生活のいろいろな場面で、それぞれの好きなことや良さを他の子どもたちに紹介したり、生かすことができる場面を設定したりしながら、大人が子どもどうしの関係を見守り、つなぐことが大切であると改めて思いました。つながりにくい子どもには、ソーシャルスキルと聞く力をつけることが大切であるとわかりました。聞く力をつけるためのしかけはどうするか、具体的な手立てを今後学ぶ機会があれば嬉しいです。講師の方のお話で、人間関係づくりができれば、出口として社会とのつながりに目を向けるということが印象的でした。〔小学校〕
- 小学校での現状、取り組んでいることを知ることができた。校区ではグループワーク(班活動・ペア学習)に重点をおいて学習の積み重ねを行っている。中学校では仲間を大切にしている生徒が多く、これは小～中の積み重ねによって成り立っていることがわかった。〔中学校〕

④対等な人間関係が築けるように

萬田 久美子さん（大阪府男女共同参画推進財団）

平成25年（2013年）8月1日「夏季合同一日研究会」第4分科会：共生の教育専門部会


1. アイスブレイク

- 自己紹介（目玉焼きにかける調味料、隣と指やてのひらを合わせて「こんにちは」「よろしくね」とあいさつ）

2. グループワーク

「人間関係をつくる力とはどんな力か？なぜその力が必要なのか？」

グループワーク交流の結果

- 
- コミュニケーション力（聞く、話す）
 - 知り合う
 - 相手を思いやる
 - 自己表現力（自分が得意なものが分かる）
 - 協調性
 - 共感力
 - あいさつ力
 - 相互理解（自分のことを知り、相手のことを知る）
 - 人が好き（人とのほどよい距離感）

- 相互理解（自分のことを知り、相手のことを知る）
- 人とつながれる
- 楽しくなる



3. 萬田先生のお話 「対等な人間関係を築くために」

- ① 対等な人間関係⇒・暴力がない
・力による支配がない
- ② 自分の気持ちを伝える力をつける
- ③ 境界を尊重する
 - ・肉体的境界：自分の体のことは自分で決める
 - ・精神的境界：自分の気持ちは自分で決める
 - ・自分が思っている境界がみんな同じとは限らない
 - ・境界は自分、他人を守るためにあり侵されてはいけない
- ④ 対等な関係を紡ぐプログラムを日常的に

⑤ peer + support

仲間 支援

子ども達の一番の相談相手は子ども達
子ども達は子ども達の中でこそ癒される

- i 自己理解・他者理解（境界・自己肯定感・多様性を知る・気持ちに気づく）
- ii 人間関係力（「聴く力」「話すカーアサーション」など）
- iii 課題解決力（ストレスマネジメント・対立の解消など）

⑥ 養成講座を経験した子ども

成果：・良質なコミュニケーション力を高めた

- ・登校しづらい子どもが、コミュニケーションをとろうとしている姿があった
- ・対人関係とネットワークが継続的に高まっていった

⑦ ワーク「あなたはどこ?」… イラストの木のどこにいるか○で囲み話す

成果：・自分の気持ちが人に言いやすくなって、自分の気持ちを見つめることができる

⑧ 聞き方

小学生版	中学生版
㉞いての顔を見て	Ⓕ a c e
㉞っしょうけんめい	Ⓖ y e C o n t a c t
㉞なずきながら	Ⓖ e a n
㉞がおで	Ⓒ o p e n
㉞わりまで ききます	Ⓖ e l a x

人間関係をつくっていける力を子どもたちにつけていくことが必要

⑤多文化共生の実践とこれから

河合大輔さん（箕面市国際交流協会 以下「MAFGA」とする。）

平成25年（2013年）8月1日「夏季合同一日研究会」 箕面市外国人教育研究会
実践報告「プラバンの向こう側～南小 すてきな出会い～」 報告：神崎先生（南小）

南小3年生で行われた、韓国朝鮮のとりくみについて。南小の「すてきな出会いの日」や国語「三年とうげ」、音楽劇、総合学習での調べ学習・発表、「とんとんとん」さん（おはなし会）との協働授業、調理実習（チヂミづくり）と、2学期を通して計画的に国際理解学習をとりくんだ。

講義「学校と連携した多文化共生の地域づくりに向けて」 報告：河合さん(MAFGA)

今年オープンした多文化交流センターでの国際交流協会としてのとりくみなど。箕面市には89か国2300人の外国人が住まわれているが、少数点在のかたちでなかなか交流できていない現状がある。その中で、MAFGAとして支援体制づくりや多様性を豊かさにプロデュースする事業づくりとしてコムカフェで働く外国人の方々の様子、地域の祭りに参加する留学生の話などがあった。取り組みの中で日本人と打ち解けられない外国の子どもたちの現状や、現在の国際情勢の問題なども話された。

グループワーク

グループごとに「学校での課題、気になること、やりたいこと」「周りにあるリソース/あったらいいなと思うリソース」「リソースをつなげて、課題を解決するアイデア」を話し合い、各校園でとりくんでいきたい多文化共生の交流した。

グループワークで出された意見

- ★課題：進路について、つながり・互いを認め合うこと、MAFGAの利用について
- ★リソース：MAFGA、民博、ALT、ゲストティーチャー・地域に住んでいる方、阪大の留学生、海外ボランティアをされている方、
- ★アイデア：給食に外国の伝統食をとりこむ、あいさつの言語、PTAをまきこむ、ルーツのある子どもが活躍できる場、道路標識や学校の表示（トイレ）などを多言語にしてみる、貿易ゲーム、文化祭で多くの文化に触れる機会、音楽で世界に触れるなど

河合さんより

- ☆MAFGAに進路相談に来る学校が決まっている。もっと多くの学校に利用してもらいたい。
- ☆外国籍の子がクラスにいるときに、何か取り組みをやってみては。
- ☆MAFGAとして、交通の利便性の問題点がある。
- ☆これからも、さまざまな意見を交流する場を増やしてやっていくことができれば。

参加者の感想

- ・ 国流や多文化共生に関わるリソースが周りに多くあることを知った。「三年とうげ」の面白い実践報告も聞いて有意義だった。
- ・ 外国にルーツをもつ保護者や児童とはあまり接点がないので、少し身近に感じられました。
- ・ **身近なところから始められる国際理解**。楽しくておいしいのがいいですね！**その国出身の人が誇りをもって過ごせるのが大切だ**と思いました。MAFGAのお話も。「食べることで人にとって大きいな」と思います。外国から来られた人に話しかけるのは勇気がいります。交流の入口にカフェは楽しそうです。言葉も大きいですね。
- ・ 具体的な取り組みが聞いてよかったです。とても良い経験になりました。
- ・ 多文化共生の学習は、今後どんどんすべきだと改めて感じました。1回、2回の学習でやった気にならず**小学校の6年間、中学校の3年間で見通しを立てて学習すべき**だと思います。ルーツをもつ家庭の親の思いももちろん大切にしながら、子ども第一でもっと国際理解へつなげていく学習をしたいです。調べ学習や調理実習で終わらず、**差別や偏見によるいじめの心を持たせない、優しい心・思いやりの心**を育てたいなと思っています。私自身も意識が変わったように思います。
- ・ 南小の地域と連携した韓国朝鮮文化を知る取り組みが良かった。国語や音楽など教科の総合的学習として3年生になじみやすい活動内容を取り組まれていた。ワークを通して課題や財産、今後やってみたいことなどを楽しく共有できてよかった。
- ・ 地域との交流がない（うすれつつある）というのは、大人でも子どもでも現在進行形だと思います。学校現場でも、暮らしているところでも、**周りの人も自分も生き生きできる「場」づくり**をめざさなくてはと思いました。
- ・ 国際交流センターの取り組みについて、知ることができました。多文化共生について、広く目を向けていきたいと思っています。

その他の意見等

- ・ 少し内容がかぶっているところがあったので、もっと新しいことを聞きたかったです。もう少しワークショップの時間が欲しかったです。
- ・ 箕面市国際交流協会の方のお話をもっと聞きたいと思いました。
- ・ MAFGAの外国人スタッフとワークできると面白い。

⑤映画「橋のない川」鑑賞

平成25年（2013年）8月7日（水）部落問題学習専門部

水平社創立をモチーフにした映画「橋のない川」を鑑賞した。参加者と感想を交流しながら、各映画の場面にこめられた思いについて共有していった。教科書記述にもある、水平社創立についてどのように授業を展開するかという観点で話し合いを進めていった。

⑥「もちあじを尊重しあう集団づくり」

沖本和子さん（吹田市立岸部第1小学校）

共生の教育専門部会平成25年（2013年）10月16日（水）

講師の沖本さんの穏やかな語りにより専門員みんながお話にひきこまれていくようだった。初めに「安心ルール」①うなずこう②ひみつはまもろう③パスOKの確認。数人のグループになって「クラスのなかまに伝えたい自分のもちあじ」（發揮したいもちあじ・知っておいてほしいもちあじ・変化させたいもちあじ）の交流をしました。お互い話しているうちに盛り上がり、ピーのオカリナの音色ではっと時間に気づくほどで、お互いの距離が縮まるようだった。このような安心ルールのもとでの「話す」「聴く」のコミュニケーションの積み重ねが、自分の思いを表現できる教室をつくっていくことにつながる。一人ひとりの「身体」「感情」「経験」など豊かな違いを「もちあじ」とし、「もちあじ」を集団の中で發揮してつながることの大切さを感じさせてもらった。

参考資料：教室はおもちゃばこ

VI 研究から見えてきた課題

- ・ 人権カリキュラムをもとに各校での具体的な授業実践を広めていくことが必要。
- ・ 小学校間や、中学校間でも違いがあるので、中学校区で一貫した指導の流れをつくっていくことが必要である。
- ・ 低学年での部落問題学習の実践事例が作成されたので実践につなげる。
- ・ 実践のために基礎知識がわかる研修が必要である。
- ・ 授業実践を学年・学校で取り組むための研究体制の確立。
- ・ すべての学校園、どの学年でも取り組める実践の研究を進めていくことが重要。

VII 次年度に向けて

- ・ 作成した人権問題のねらいにもとづき、さらに授業づくりや指導案作成を進める。
- ・ 市内の実践を集約し、体系化する。

「大阪府人権教育推進計画」(大阪府 平成 17 年 3 月)よりの引用

【多様性を認め合う人権教育を推進】

性別や障害の有無、社会的出身や国籍、人種や民族などによって、あるいは、制度や慣行などを理由として、差別的な取扱いを受けることのないよう、一人ひとりの個性と文化を尊重し、多様性を認め合う人権教育を推進します。

【実践的な人権教育を推進】

一人ひとりが自らの人権を守るだけでなく、デマや噂、偏見に同調・傍観せず、さらには他者の生命や人格、様々な価値観にも思いを致すなど、人権尊重の精神を当然のこととし、行動に結びつけることができる実践的な人権教育を推進します。

【自立とエンパワメントを支援する人権教育を推進】

誰もが生まれながらに持つかけがえのない可能性を制約されることなく社会に参画し、すべての人が個性や能力を活かして自己実現を図ることができる社会の構築をめざして、一人ひとりの「自立」と「エンパワメント」(*)を支援する人権教育を推進します。(*)エンパワメント 差別など社会的抑圧等により弱者の立場に立たされてきた個々人が、その内在する能力、行動力、自己決定力を取り戻すことです。子どもの場合であれば、自分らしく主体的に生きる力を高めることにより、いじめ、虐待等から、自らを守る力をひきだすことです。

ここから見えてくるキーワードは、子どもの状況をもとに、**多様な価値観を認め合う姿勢・態度を養うための取り組み**がもとめられているということです。性的マイノリティとよばれる人たち、外国にルーツをもつ人たち、障害があるといわれる人たち、歴史の流れの中で、社会的に排除を受けた地域にルーツをもつ人たち、それぞれの立場の人たちの価値観を排除ではなく受容できる子どもたちを育むためのカリキュラムづくりを2年にわたって進めました。各校の実情にあわせて活用してもらえることを願っています。

学びをとおして、子どもたちの考えや行動に本当に変化があらわれたかが、評価軸になります。人間社会が生み出す、差別や偏見を見抜き、それに対して怒りを持ち、**差別解消、平等な社会づくり**に対して、**具体的な行動力を育てていく**ことが何より大切だと考えます。多くの課題にふれていくことが、結局は、そういった取り組みにつながることに考えています。

なにより大切なのは、カリキュラムに取り組むことで、**子どもたちが自分たちの生活の中にある差別や偏見に気づき、解消に向けての具体的な行動につなげていけるようになる**ことです。子どもたちの行動は、社会にある問題や見方が反映されていることが多いです。仲間への排除や暴力、障害のあると言われていた仲間への見方、外国にルーツのある仲間への見方など、「共生」の視点で読み解けるような取り組みが今こそ求められています。**人権の学びをとおして、自己肯定感を育むこともわすれてはいけません**。箕面市の教職員の取り組みから生まれた、この人権教育カリキュラムの授業案がさらに広がり、子どもと教職員で人権の学校文化をつくっていく一歩になることを願っています。

	本の題名	作者名	出版社	国	ページ数	内容 (ストーリー)	学べること	その他
1	まほうつかい バーバ・ヤガー	ナタリー・バラ ン/絵 ロシア民話 松谷さやか/再 話	福音館書 店	ロシア	27	むすめはいじわるな新しいおおかあさんのいいつけで、まほうつかいのバーバ・ヤガーのところへいく。バーバ・ヤガーはむすめを食べようとしますが、おばさんに教えてもらった方法で逃げ切り、おとうさんとしあわせに暮らした。	ロシアの民族衣装ルバーシカ。	
2	アフリカへいった クマ	市川里美/ 作・絵	徳間書店	アフリカ	32	サバンナの男の子メトは、観光で来た白人の女の子と親しく交流する。その女の子が帰る際に、クマのぬいぐるみをお忘れのため、途中、サバンナの動物たちと会話しながら、女の子をおいかけ、なんとか出発までに間にあい、無事に届けられる。	サバンナで暮らす人々の様子や動物の絵。文中の動物は、スワヒリ語の呼び方で書かれている。	
3	1つぶのおこめ さんすうのむかし ばなし	デミ/作 さくまゆみ こ/訳	光村教育 図書	インド	40	インドのおうさまは人々のお米を自分の米倉にしまいこんでいた。むらむすめのラーニはおうさまのぞうから落ちた米を拾い集め、おうさまに返しにいった。かしこいラーニはほうびに米粒を一つもらい、30日の間前の日の倍の数だけお米をくれるようお願いをした。30日目には536870912粒になり、人々に分け与えた。	衣装や宮殿の絵。インドの算数の昔話。	
4	ぼくの村に サーカスがきた	小林 豊/ 作・絵	ポプラ社	アフガニ スタン	41	パグマンの村にサーカスがやってきた。広場には観覧車や回転ブランコ、いろんなお店が並び、村は大盛り上がり。楽しかったサーカスは終わり、村には厳しい冬がやってくる。戦争で破壊されてしまった村の人々の暮らしを描いている。	アフガニスタンの村の人々の暮らしが描かれている。(服装、家、作物、道具、動物、自然、楽器など) 戦争について。	3部作のお話で、第1部の「せかいいちうつくしいぼくの村」は東京書籍の教科書に載っている。

	本の題名	作者名	出版社	国	ページ数	内容 (ストーリー)	学べること	その他
5	きょうはソンミの うちでキムチをつ けるひ！	チェ・インソン /作 パン・ジョンフ /絵 ピョン・キジャ /訳	セーラー 出版	韓国	31	朝鮮半島では秋の終わりが、冬食べる分のキムチをまとめて漬ける「キムジャン」という行事がある。ソンミのうちのキムジャンの日、裏庭に住んでいるねずみのうちでも、ソンミのうちのまねをしながらキムチを漬けてみることにした。キムチの作り方をかわいらしい絵で教えてくれている。	韓国の食文化を知ることができる。 キムチの作り方だけでなく、家族・親戚・近所総出で行う「キムジャン」という韓国の行事を知ることができる。 文中にいくつか韓国が出てくるので、言葉に触れることができる。	キムチの歴史・種類など紹介した解説付き。
6	バオバブの きのうえで	ジュエリ・バ バ・シソコロ/ 語り みやこ・み な/再話 ラミン・ド ロ/ 絵	服音館書 店	マリ	32	村の人から捨てられた男の子が森で育ち、雨に降らないようにまじないをかける。村の人々が男の子に託びて男の子は村に戻り、村の王に選ばれ深い知恵でこの国を治める。	マリの豊かな森の知恵、風土、文化、自然	漢字は使われていないので低学年でも読める
7	しごとをとりにかえ ただんなさん	ウィリア ム・ウィー スナー/絵 あきのしよ ういちろう /訳	童話館出 版	ノル ウェー	29	夫婦が家の中の仕事と外の仕事を取り替えてみるが、うまくいかない。それからお互いの仕事を少しずつ楽しみ、手伝い幸せに暮らす。	ノルウェーの建物・服装・食事・仕事・男女共生の考え方	

お勧めの本 NO. 3

	本の題名	作者名	出版社	国	ページ数	内容 (ストーリー)	学べること	その他
8	きつねのホイテイ	シビル・ウエハ ツタン 松岡享子訳	福音館書店	スリラン カ	43	ホイテイというきつねが人の服を着て旅人のふりをし、村人の家で食事をご馳走になる。きつねの変装は村人にはばれるのか、そしてきつねはどうなってしまうのか…	<ul style="list-style-type: none"> 民族衣装 (サリー) 手でご飯を食べる 結婚式の儀式 家の構造 	
9	あかてぬぐいのおく さんと7人のなかま	イ・ヨンギョン 神谷丹路訳	福音館書店	韓国	31	あかてぬぐいのおくさんは裁縫に使われる7つの道具の妖精と一緒に仕事をしている。ある時仕事に一番必要なのは自分だとそれぞれが主張する。誰一人欠けても仕事はできないという事を伝えるストーリーになっている。	<ul style="list-style-type: none"> 民族衣装 (チマチョゴリ) 家の構造 	
10	アフリカの音	沢田としき	講談社	アフリカ	31	命の連なりや、自然の恵みに感謝する文化の話。アフリカのお祭りが出てくる。	<ul style="list-style-type: none"> 民族衣装 広い草原や動物 家の構造 国特有のお祭り 	字が少ない。
11	ソルビム お正月の晴れ着	ペ・ヒョンジユ ピョン・キジャ/ 訳	セーラー 出版	韓国	34	韓国のお正月には晴れ着を着る。晴れ着 (チマチョゴリ) を一枚ずつ着て、最後にはかわいい姿があらわれる。	<ul style="list-style-type: none"> チマチョゴリの着方 服の部品の名前 韓国語 新年の風習 	パート2で男子の晴れ着の着方がある。
12	チュンチエ	ユイ・リーチ ヨン チュン・ジョン リヤン 中由美子訳	光村教育 図書	中国	33	家族3人で迎えるお正月。中国でのお正月の迎え方が文と絵で示されている。	<ul style="list-style-type: none"> 中国のお正月 (春節：旧暦の新年を祝う中国最大の伝統行事) 習慣・儀式 街の風景 言葉 (漢字) 	

	本の題名	作者名	出版社	国	ページ数	内容 (ストーリー)	学べること	その他
13	にむの木のある村	小林 豊 作 絵	大阪国際 交流セン ター	バン グラ デイ シユ	38	家具や菓にもなる「にむの木」のある村「シャハナ」という少女が初めて親戚の畑でのお手伝いに向かう日の様子。何気ない一日から、そこに暮らす人々の様子や暮らしぶり、気持ちも伝わってきます。	服装 環境 食事 仕事 出稼ぎ 建物 家の中 家族関係 (農業の様子) など	ストーリーも 絵も 暮らしを伝えてくれる。
14	ぼくの村にジェム レがおりた	小林 豊 作 絵	大阪国際 交流セン ター	トル コ	48	ジェムレがおりる = 春がくる トルコの村で毎日羊の世話をしながら暮らすオルタン少年の普段の生活。ある日、雨が降らないということでおじいちゃんやんが『雨乞い』をすることになる。おじいちゃんについて行ったオルタンは一部始終を見届ける。雨が降り始める。	服装 (あまごいの) 祭り (?) 環境 楽器 食事 仕事 出稼ぎ 家の様子 肌の色 家族関係 など	ストーリーも 絵も 暮らしを伝えてくれる。
15	ハンダのびっくり プレゼント	アイリー ブラウン 作福本友 美子訳	光村教育 図書	ケニ ア	26	おいしそりなくただものを7種類、頭に乗せて友達に届けに行つたハンダ。ハンダの知らない間にたくさんの動物がやってきて・・・ 友達のアケヨに会った時には全部アケヨの大好きなみかんになっていました。一番びっくりしたのはハンダでした。	服装 環境 髪型 食べ物 関係 など 家の様子 肌の色 家族関係 など	単純なストーリー りで、取り 組みやすい。

お勧めの本 NO. 5

	本の題名	作者名	出版社	国	ページ数	内容 (ストーリー)	学べること	その他
16	ソリちゃんの手ユソク	イ・オクベ 絵と文 み せけいこ訳	セーラー 出版	韓国	40	チュソク (秋夕) は旧暦の8月15日、だいた い9月の中旬の収穫のはじまる時期にありま す。正月と並ぶ韓国の大きな行事で、3日間休 みとなります。チュソクの前日の夕方には、お 月様を見ながら新米でソンピョン (松餅) をつ くり、チュソクの当日には秋の収穫の喜びを先 祖に感謝してから町じゅうでお祭りが始まり ます。都市に住んでいる多くの人が故郷に帰る ので、高速道路が混んだり、日本のお盆とそっ くりです。	韓国の建物・服装・食 事・風習・文化・言葉	絵が豊富で 風習・文化を 学べる。
17	ころころまるパ ン・マーシャとく ま・やぎのブルー セ	文/松谷さ やか・山内 清子 絵/ さとうわき こ・小野か おる・西川 おさむ	講談社	ロシア	88	ロシアの有名な昔話を3つ集めた本。ころころ まるパン→うまれたばかりのまるパンはころ がってこわい動物たちの口からうまく逃げて いきます。マーシャとくま→くまにつかまって しまったかわいそうなマーシャ。くまのご飯を 作らされたり、掃除、洗濯をさせられたり…。 やぎのブルーセ→三匹のやぎたちがこわいと ロールが待ち構えている橋を渡る話。	ロシアの怪物・建物・ 服装・食事 (ピロシ キ・ペチカ)	
18	マンヒのいえ	クオン・ユ ンドク絵と 文 みせけ い訳	セーラー 出版	韓国	36	マンヒ達はせまいアパートからおじいちゃ ん・おばあちゃんの家へ引っ越します。その家 にはたくさんの部屋があり、庭も広く3匹のイ ヌもマンヒと遊ぶのを待っています。	韓国の建物 (アンバ ン・台所・納屋・チャ ンドクテ・庭・玄関・ お風呂・マル・屋上) など普通の家庭の様 子がわかる。	絵が豊富。

お勧めの本 NO. 6

	本の題名	作者名	出版社	国	ページ数	内容 (ストーリー)	学べること	その他
19	ペレのあたらしいふく	エルサ・ベスコフ作・絵 おのでのらゆりこ訳	福音館書店	スウェーデン	16	ペレが自分の子ヒツジの毛をかりとり、いろいろな人の助けをかりて、あたらしい服を作るまで。	スウェーデンの昔の農村のくらし。	
20	風がふいたら	パッド・ハッチンス作 田村隆一訳	評論社	イギリス	14	(文字少ない) 風がふいて、風船や傘、凧、裁判長のかつらなど次々と色々な物がとばされていくお話。	とても簡単で読みやすい繰り返しのお話。イギリスの風景や家やこの近衛兵の様子がわかる。	字が少ないお話しです。
21	かわいいサルマ	ニキ・ダリ一作 さくま・ゆみこ訳	光村教育図書	アフリカ	25	(文字多め) サルマという女の子が大好きなおおあちやんに頼まれて、おつかいに出かけます。まっすぐいって、まっすぐ帰るんだよ。知らない誰かとおしゃべりしちゃだめだよと言われていくのが・・・。途中でイヌに合ってます。あかぎんのお話しに似ています。	服装や街並み、お祭り等で使う面等が表現されて分かりやすいです。	少し字が多いです。
22	ハンヒの市場めぐり	カン・ジョンヒ作 おおたけきみよ訳	光村教育図書	韓国	34	男の子がお母さんと一緒に市場に買い物に行く話。	市場の様子や看板の文字、店に売られている物など詳しく描かれている。図鑑のようによく描かれている。図鑑のようによく描かれている。	絵が多い

	本の題名	作者名	出版社	国	ページ数	内容 (ストーリー)	学べること	その他
23	いしのおもちゃ	イチンノロブ・ガンバートル分 津田紀子訳 バーサンス レン・ポロ ルマー絵	こどものとも社	モンゴル	31	草原で女の子が石を集めて遊ぶ話。ある日、砂嵐きて大切に集めた石がとばされなくなってしまう。その後、またお気に入りの石を探すのですが……。	モンゴルのゲルや草原、ラクダなど生活の様子などが良く分かります。石を何かに見立てて遊ぶ子ども遊びが表現されて親しみやすいです。	
24	せかいいちうつくしいぼくの村	小林 豊作	ポプラ社	アフガニスタン	39	男の子がくだもの売りに行くお話です。	市場や家、風景、生活の様子がよくかきりる。	字は少ないけれど、少し長い。 ★シリーズに「ぼくのむらにサーカスがきた」がある。
25	ぼくのうちはゲル	バーサンス レン・ポロ ルマー作 長野ヒデ子 訳		モンゴル	30	生まれたての男の子が一歳になるまでのお話。モンゴルの一年が季節をおってわかるお話。ゲルやゆりかご、服装などが細かく表現されている。	モンゴルの季節の様子やどの様なゆりかごで赤ちゃんが育つかなどが分かります。赤ちゃんと一緒の生活が描かれています。	字が多くなり読みやすい。

お勧めの本 NO. 8

本の題名	著者名	出版社	国	ページ数	内容 (ストーリー)	学べること	その他
せかいのひとびと	ピーター・スピア (絵と文) 松川真弓訳	評論社		41	各国の肌の色、目の色などの身体的特徴や服装、住居、文字などの文化や宗教等を織細で美しい絵で紹介し、それぞれ違いがあることがすばらしいと結んでいる。	内容と同様。初版がS57なので、人口などについては修正する必要があるが、内容もわかりやすく、幅広い年齢で活用できると思う。	

